

仙台市文化財調査報告書第209集

# 笹森城跡

発掘調査報告書

1996年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第209集

# 笹森城跡

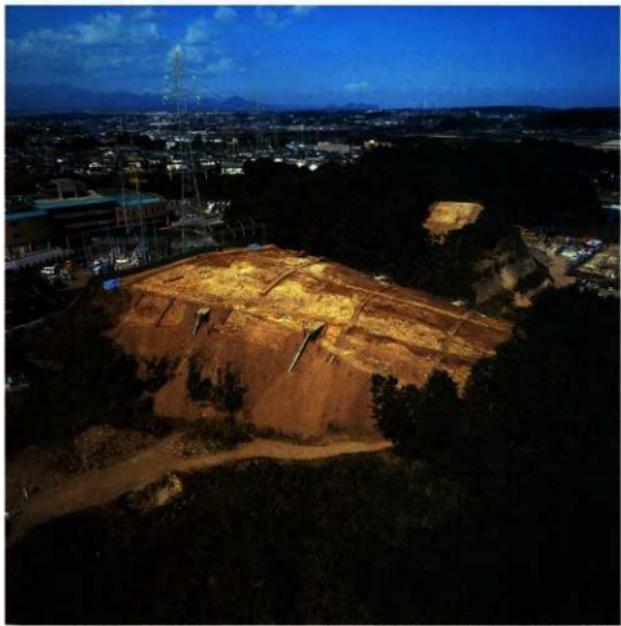
発掘調査報告書

1996年3月

仙台市教育委員会



笹森城跡全景（南東上空から）



笹森城跡調査区全景（南上空から）

## 序 文

日頃より、本市の文化財保護行政に対しまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまでの数多くの遺跡が存在し、古くより人々が生活を営み、文化を築き上げてきたことが知られています。宮城野区にも、大規模な中世の山城として国史跡の指定を受けている岩切城をはじめとして、古代から中世の重要な遺跡がいくつも見られます。この鶴ヶ谷地区を見ましても、奈良・平安時代に陸奥国府多賀城や陸奥国分寺・尼寺で使用した瓦や土器を焼いた台原小山原窯跡群が全国的にも知られており他、周辺地区には古墳時代以降、集落跡、横穴墓、城館跡などの多くの遺跡が点在し、古くから人々の生活の場として重要な位置を占めていたことを伺うことができます。

近年、市街地北部は住宅地化が著しく、なかでもこの地区は昭和40年代に総面積約178haという大規模な開発の造成工事が行われ、かつての地形や景観が変貌し、土地に根付いた歴史の足跡をたどることが困難な現状となっております。今般、市街地の交通渋滞を解消するため鶴ヶ谷地区に都市計画道路東仙台泉線の建設が計画され、これに伴い、路線予定地にかかりました笠森城跡の発掘調査を実施いたしました。

その結果、丘陵上に中世の建物跡や平場などを発見し、伊達政宗の家臣国分衆であった鶴ヶ谷氏が戦国時代に居城したとされる笠森城跡に関わる遺構であることを確認し、さらには古代の竪穴住居跡や縄文時代の遺物を発見し、この地区での連続とした歴史の一端を知ることができました。

ここに報告いたします調査成果が、研究者のみならず市民の皆様に広く活用され、文化財に対するご理解と保護に役立つものとなれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことに対しまして深く感謝申し上げます。

平成8年3月

仙台市教育委員会  
教育長 坪山 繁

## 例　　言

1. 本書は、仙台市都市計画道路東仙台泉線の整備工事に伴う、平成7年度に実施した菅森城跡の発掘調査報告書である。
2. 本書の執筆・編集は、金森安孝、本多裕聰が担当した。
3. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の方々に助言指導、協力をいただいた。記して感謝の意を表す。  
入間田宣夫、菅野正道、白鳥良一、横田銀一、横田繁夫、吉井 宏、鶴ヶ谷北町内会、鶴ヶ谷町内会、閔兵精美株式会社、仙台市寺沢上地区画整理組合、宮城県図書館（順不同、敬称略）
4. 本報告に関わる出土品や遺構尖端圖面、写真などの記録資料は、仙台市教育委員会が一括して保管している。

## 凡　　例

1. 本報告で使用した土色は「新版標準土色帖」(小山・竹原：1976)に準拠している。
2. 本文・図中で使用した方位の北は、すべて磁北で統一している。
3. 図中の座標値は平面座標系Xによっている。
4. 標高値は海拔高(T.P.)を示している。
5. 揭載した地形図や航空写真は、国土地理院発行のものを一部複製し、使用したものである。
6. 調査区の全景写真は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、縮尺1/200現況地形図及び1/100遺構平面図の測量図化を株式会社アイシー北関東営業所に業務委託した。
7. 遺構略号は次のとおりで、全遺構に通し番号を付した。  
SA：柱列 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 P：ピット SR：河川  
SX：性格不明遺構 その他、焼土遺構、土塁、平場遺構、通路状遺構は、略号を用いずに使用した。
8. 遺物略号は次のとおりで、各々種別毎に番号を付した。  
A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器 D：土師質土器 E：須恵器 F：瓦質土器  
G：瓦 H：土製品 J：磁器 K：石器 L：石製品 M：金属製品  
N：古錢
9. 遺物観察表の中の法量( )内数値は、土器・磁器については図上復元値を、その他は残存値を示している。
10. 出土した金属製品のうち、笄と鉄砲玉の成分分析と保存処理については、新日本製鉄株式会社釜石製鉄所釜石文化財保存処理センターに業務委託した。
11. 出土した炭化材15点の樹種同定については、株式会社古環境研究所に業務委託し、分析結果を掲載した。

# 本文目次

## 卷頭カラー写真

序 文

例 言

凡 例

## I 調査経過

1. 調査に至る経過.....	1
2. 調査要項.....	1
3. 遺跡の位置と環境.....	2
4. 調査方法と経過.....	8
5. 基本層序.....	11

## II 検出遺構と出土遺物

1. 検出遺構.....	13
2. 出土遺物.....	42

## III 自然化学分析

仙台市笠森城跡出土炭化材の樹種同定.....	49
------------------------	----

## IV まとめ .....

# I 調査経過

## 1. 調査に至る経過

仙台市建設局道路部街路課では、宮城野区鶴ヶ谷字本山・館下に所在する笠森城跡に関し、平成8年4月に着工予定の都市計画道路東仙台泉線道路改良工事に伴い、平成5年7月12日付け建造街第118号で発掘通知を仙台市教育委員会に提出した。

これを受け、仙台市教育委員会文化財課では、道路幅22m、総延長約800mの工事対象区間12,120m<sup>2</sup>について、平成6年9月20日、建設局街路課担当者と笠森城跡の現地踏査を実施し、現況で上塗や通路状造構を確認し、平成7年1月から2月にかけて、調査対象地の樹木を伐採、場外搬出した後、平成7年度に約4,000m<sup>2</sup>の発掘調査を実施することとなった。

## 2. 調査要項

**遺跡名：** 笠森城跡（仙台市遺跡番号C-512 宮城県遺跡番号01120）

**所在地：** 仙台市宮城野区鶴ヶ谷字本山・館下

**調査事由：** 仙台市都市計画道路建設（仙台市建設局道路部街路課）

**調査面積：** 約12,120m<sup>2</sup>

**調査面積：** 約 4,000m<sup>2</sup>

**調査主体：** 仙台市教育委員会

**調査担当：** 仙台市教育委員会文化財課調査第一係

文化財課長 小井川和夫

調査第一係 係長 田中 則和

主任 金森 安孝 主事 工藤信一郎

教諭 五十嵐康洋 文化財教諭 本多 裕聯

**発掘調査期間：** 平成7年4月18日～平成7年12月1日

**遺物整理期間：** 平成7年12月4日～平成8年3月22日

**調査・整理参加者：** 相沢みえ子、相沢美佐子、相沢 守、安藤 繁、石川直路、岩間郁雄、蛇名博之、大島武夫  
大槻京子、大友広美、奥山妙子、長出源七、小野洋子、小野寺俊史、小山田博子、神坂勝太郎  
川嶋孝子、川嶋富美子、菅原典子、菅間喜美子、木村明美、九島一文、熊谷きぬ子、熊谷キミ子  
桑島精一、今野多喜子、斎藤喜恵子、佐藤剛、佐藤紀子、佐藤久栄、佐藤よし子、柴田惣郎  
庄子大介、菅原典子、関口国生、高橋弘子、高橋宏明、田中世津子、千葉律子、七宮 清  
新沼よしあ、古川千鶴子、占部安美、細谷あや子、三浦三枝子、武藤多喜子、森 利男  
山口 嶽、横田忠美子、横田耕造、横田由美子、我妻龟三、渡辺純子

### 3. 遺跡の位置と環境

#### 【地理的環境】

笹森城跡は、仙台市の北東部、仙台駅の北東約6kmの宮城野区鶴ヶ谷字本山に所在する城館跡である。

遺跡周辺の地形を概観すると、奥羽山系から続く七北田丘陵が東に延び、泉ヶ岳に源を発する七北田川が東流しながら丘陵地形を開析し、丘陵端から太平洋にかけて広大な沖積平野を形成している。河川流域には、河岸段丘が発達し、両岸には自然堤防を形づくっている。

笹森城跡は、七北田川右岸の丘陵上部で、尾根の北東端の頂部に位置し、七北田川をはさんで岩切城や松森城と対峙する位置にある。遺跡の東には、七北田川の小分流である新川上流の鶴ヶ谷大堤があり、北西には中堤や北堤を連ねる谷があって、これらの谷に挟まれた標高60~64m、北側崖下部、宮城野区鶴ヶ谷字館下との比高差が約40mの尾根上に立地する。

笹森城跡は、昭和30年代以降、鶴ヶ谷地区的開発で周辺地の造成や土採りが著しく行われた。地元住民からの聞き取りによれば、かつては明瞭な遺構が尾根の突端上部に残存し、東西50m、南北80mほどの平場（曲輪）や三段の「段」（帶曲輪）など城の主要な部分が現在は壊滅状態にさらされ、これまで発掘調査が行われたことのない城館跡である。



第1図 遺跡位置図 (1/75,000)

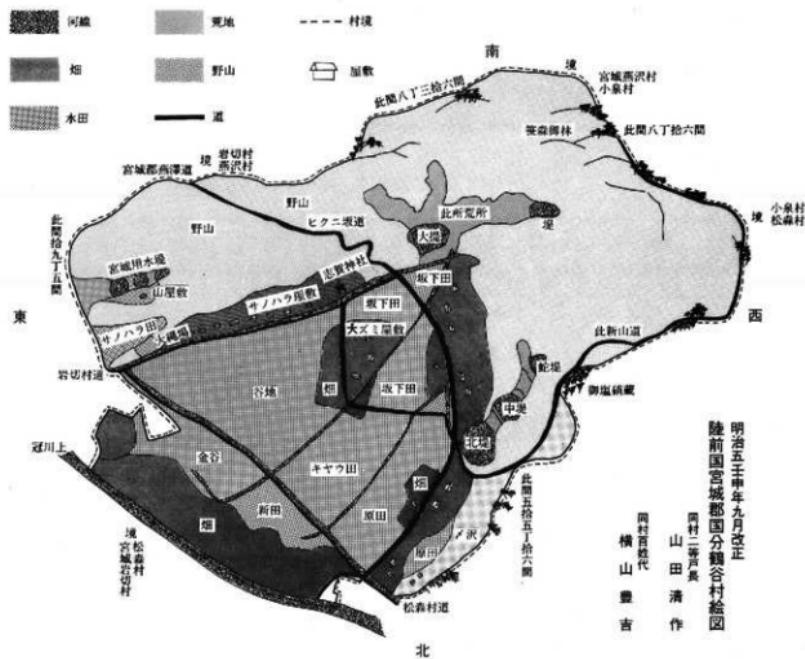


No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代
1	雄略城跡	城跡	中世	16	雄略古墳	高塚古墳	古墳
2	高倉城跡	城跡	中世	17	五郎兵衛古墳	高塚古墳	古墳
3	松谷城跡	城跡	中世	18	東北豪傑心通寺古墳群	鏡火鳥群・石碑	古墳末・弘安5年銘碑
4	小畠城跡	城跡	中世	19	白壁山城跡	鏡火鳥群	古墳末
5	孫田城跡	城跡	中世	20	人見丘古墳群	鏡火鳥群	古墳末
6	佛ノ瓦遺跡	遺跡	古代・中世	21	北都御守	墳墓	古代
7	東光寺跡・般穴寺跡	城跡・寺院跡・般穴寺跡	古墳・平安・近世	22	竹折御守遺跡	墓地跡	古代
8	今合遺跡	遺跡	平安・中世	23	無門遺跡	墓地跡	寺院跡 (?) 古代
9	割之口遺跡	城跡	中世	24	大通寺御跡	幽跡	古代
10	斎宮道跡・多賀城屯跡	城跡	中世	25	大通御跡跡	敷布地	平安
11	佐古遺跡	遺跡	石器	26	斎宮道跡跡	敷布地	平安
12	長船遺跡	遺跡	旧石器・縄文・弥生・古代	27	吉原遺跡	散布地	平安
13	古宮前遺跡	城跡・祭祀地	縄文・古墳・平安～近世	28	人見沢御跡	散布地	平安
14	葛巣川遺跡	散在地	縄文・古代	29	松木塙史跡跡	火薬跡	近世
15	牛久塙古墳	古墳		30	北庄尼坂	遺跡	

第2図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



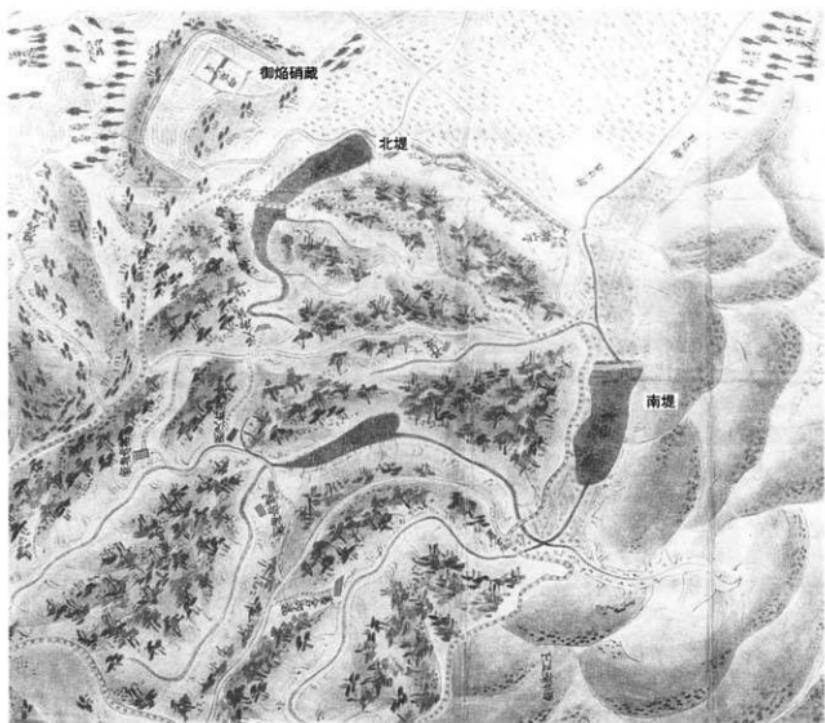
第3図 鶴ヶ谷村周辺地形図  
〔仙臺東北部〕大日本陸地測量部 昭和6年を調整



第4図 鶴谷村絵図（明治5年をトレース・調整）



第5図 「野狩初図」(部分 宮城県図書館蔵)



第6図 野狩初図 (笠森城跡部分を拡大)

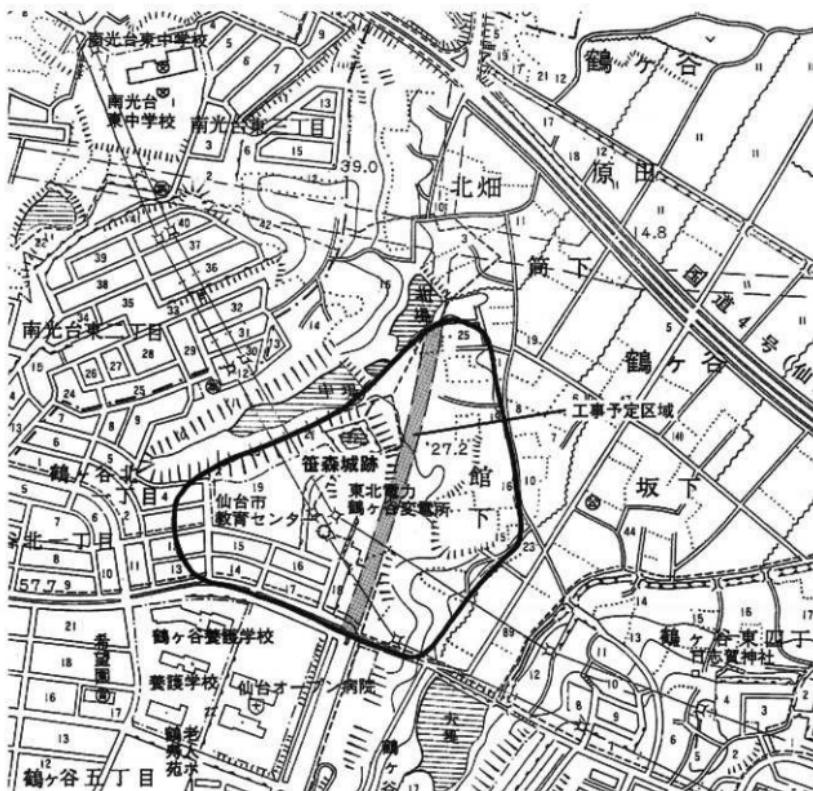
### 【歷史的環境】

猿森城跡周辺の遺跡は、七北田川両岸の丘陵面と自然堤防上に立地している。現在、弥生時代の遺跡は確認されておらず、古墳時代以降の遺跡が数多く点在する。

古墳時代の高塚古墳として岩切字山崎に千人塚古墳があり、円墳と推定されている。また、今市の岩切小学校隣接地や多賀城市新田遺跡からは円筒埴輪が出土しており、未知の古墳が埋没または削平されている可能性がある。

古墳時代の集落としては、七北田川右岸の自然堤防上に立地する鴻ノ巣遺跡があり、古墳時代前期から中期にかけての遺構や遺物を確認している。台原・小田原丘陵には、青葉区堤町から連続して近世まで引き継ぐ窯跡が点在するが、そのなかでも丘陵東部の大蓮寺窯跡は、初期須恵器の生産窯として全国的にも名高い。

古墳時代終末から奈良時代にかけては、七北田川両岸の丘陵の麓に善応寺・東光寺・入生沢・台屋敷・菅谷など多くの横穴墓群が形成されている。奈良時代には、本遺跡の東5kmに、陸奥国府多賀城が造営され、その南西7kmの陸奥国分寺・同尼寺などとともに、この地域は東北の中心地として栄え、これらの施設に供給される瓦・土器の生



第7図 都市計画道東仙台泉線路線図

産が台原・小田原丘陵上の多くの窓跡で開始され、一大窓業地が形成されている。

平安時代に入ると、漆紙文書や瓦を出土し、官衙風の建物跡からなる南東部の丘陵上の燕沢遺跡や、鴻ノ巣遺跡、岩切塙中遺跡など、多くの遺跡で中世に至るまでの遺構や遺物を確認し、集落としての発達を窺うことができる。

源頼朝の平泉攻略の後、陸奥国留守職に任命された伊沢氏の居住の地として栄えた岩切・利府周辺には、岩切城跡、洞ノ口遺跡、東光寺城跡、松森城跡、化粧坂城跡、竹林城跡、利府城跡など、中世の城館跡が数多く分布している。

また、東光寺境内には、嘉慶2年（1327）銘の大型板碑をはじめとする県内でも有数の板碑群があり、業師如来や阿弥陀如来の石窟仏群を擁し、宗教的な中心地でもあったことが確認されている。

留守家文書には、鎌倉時代後半、冠屋市場、河原宿五日市場などの存在に関わる記載がみられ、七北田川周辺の今市付近では活発な商業活動が営まれていたようだ、古代以降、陸奥国府の官人たちの往来によってもたらされた高い文化を背景に、地方にあって政治・文化の中心地であったことが知られる。

岩切地区は、江戸時代は宮城郡四分山根通鶴ヶ谷村に属しており、今市の集落は江戸時代に開かれた街道に沿った町並みが形成され、足軽町や宿場町として交通の要衝として栄えていたが、昭和16年（1941）に仙台市に合併され、今日に至っている。

篠森城に関わる文献として、江戸時代、延宝年間（1673～1681）に記された『仙台領古城書上』には、領内21郡の536ヶ城の記事がある。その中に「鶴谷村 山（城）一、篠森城 東西四五間、南北二十間、…」とあり、篠森城は岩切村鶴谷にあって、東西45間、南北20間ほどの規模で、城主として鶴谷治部（次郎）が天正年間まで居住したとされる。また、享保13年（1728）制作の『仙台領古城書立之覚』にもこの記事と同様の記事がある。

鶴谷氏は、「留守分領帳」に記された「里之内数」の中に「鶴かやふせん」（鶴谷豈前）とあり、「余日氏三記」には留守氏の被官である堀越社の「宮侍」として記されるが、高野山參詣に関する天文16年（1547）の「國分宗政等宿坊証文」（秋田國分文書）には、国分能登守宗政とともに鶴谷大蔵尉宗重や松森氏等の名が見え、留守氏と国分氏の両勢力の間で、「両属・多属」の小領主として郷六氏や南日氏、栗野氏などとともに戦国時代を生抜いたとされている。

また、「國分氏系図」によれば、国分氏第14世宗政の妹が家臣鶴谷盛勝の室となっていることから、鶴谷氏は、16世紀後半には、宮城郡西南部を領していた国分氏と姻戚関係をもつ有力な家臣として、「國分・三箇村書上」にも村名がある鶴谷の地に居住して館を築いていたものと推測される。この地は、留守氏との領地の境界付近に位置しており、天正2年（1574）の留守政景宛行状写に、鶴谷の地で「合戦」があったことが窺えることから、篠森城は国分氏側に与する村規模の領主であった鶴谷氏の城館として、対留守氏の最前線に設置されたものと考えられる。

その後、慶長5年（1600）の「最上陣覚書」には、「國分衆」の一員として鶴谷氏の名が見え、延宝5年（1677）に記された「伊達藩家臣録」には、鶴谷治部が伊達政宗の家臣に召抱えられ、鶴谷氏は二代藩主忠宗の代になって宮城郡高城竹谷村（松島町高城）の野谷地開発等で加増され、正徳6年（1716）まで続いた家系とされている。また、「佐藤純幹覚書」には、国分鎮守である白山宮の祭礼行事は、かつての國分衆に名を連ねた鶴谷氏等が江戸期にも執り行っていたことが記されている。

仙台藩で正月に行われていた「軍事演習」の「陣立」を示す「野初絵図」（宮城県図書館蔵）には、篠森城付近に地名の記載や城の平場などの遺構を示す表記は認められないが、岩切地区を中心とする七北田川周辺の山野で、軍事演習が展開したことが知られている。この絵図には、本遺跡の西側に元禄年間に造営された松森油硝蔵が記され、明治初年まで使用されていたが、上屋に開まれた蔵跡や爆発坑が確認され、現在は市指定史跡として指定されている。

さらに、戦国大名留守氏の家臣であった兵藤大陸信俊は、奥羽仕置後に浪人となり、現在の今市（宮城野区岩切字今市）の地に移り住んで新田開発や道路建設に取り組み、元和7年（1621）より数年の間に岩切村の開発を指揮

し、その功によって仙台藩主伊達政宗により、寛永2年（1625）、今市足軽の組頭に取立てられた。さらに、「安永風土記」にも記される薄ヶ沢堰は、この頃に松森村薄ヶ沢で七北田川から取水し、鶴ヶ谷を東流した後、今市、小鶴へと流れる用水で、今市足軽によって築造されたものとされ、新田開発に大いに貢献している。

兵藤氏は在郷で今市足軽を指揮し、かつ伝馬業務や六斎市の開催など、町検断役をも命じられ、在郷屋敷を構えていたが、寛永年間に居館を鶴谷から今市に移したとされており、現在でも佐森城の龍、鶴ヶ谷字館下に「大隈屋敷」の推定地を屋敷林などで確認することができる。この兵藤氏の一族は、14世紀中頃、文和年間に鶴ヶ谷の地に居住したとする説もあるが、その居館の位置や佐森城との関係については不明である。

これらのことから、佐森城の築城時期は不明であるが、文献史料との関係から、城の廃施時期は16世紀末、天正年間頃と考えられ、近世期にはこの地は伊達氏の配下となる兵藤氏に治められていたが、城は荒廃し、平場などの遺構も機能していなかったものとみられる。

## 4. 調査方法と経過

### 【調査区の設定】

調査地は、宮城野区鶴ヶ谷5丁目に所在する財団法人仙台市医療センター仙台オーブン病院の北側で、鶴ヶ谷北1丁目に所在する仙台市教育センター及び東北電力鶴ヶ谷変電所の東側に位置し、現況で標高48m程の平坦な造成地の北に、西から東に尾根が2本延び、その間に新川の支流の沢が東側から入り込み、急峻な谷地形を呈している。

今回の道路工事では、標高59～64mの南側の尾根部分は道路の両側から階段状に65m幅で逆台形に削平され、標高55～63mの北側の尾根部分は両側が15mほど階段状に削平される計画であるが、その東突端部はすでに土採りで削られている。2本の尾根に挟まれた標高32～40mの谷部は工事で盛土されるが、対象地全域の遺構について記録保存を前提とした発掘調査を実施し、調査前と遺構検出後にラジコンヘリコプターによる航空写真測量を行うこととした。

調査区は南からI・II・III・IV区と命名し、調査対象地南側の平坦な造成地のI区、谷部のIII区、尾根部のIV区・II区の順に発掘調査を開始した。さらに、遺構の連続性を検討するため、IV区の西側にV区、II区の東側にVI区を設定し、現況で地表顕在の遺構確認を行った。

5月8日から調査区南西角に測量基点を設け、I区とII区に10mメッシュの基準線を設定し、南から北方向に1～15、西から東方向にA～Kと区画を区切って、調査区ごとに造り方測量を行った。座標系の基準線は、磁北を基準に東に18°偏し（N-18°-E）、遺構実測の便宜上5mのグリッドごとに平面図を作成した（第8図）。

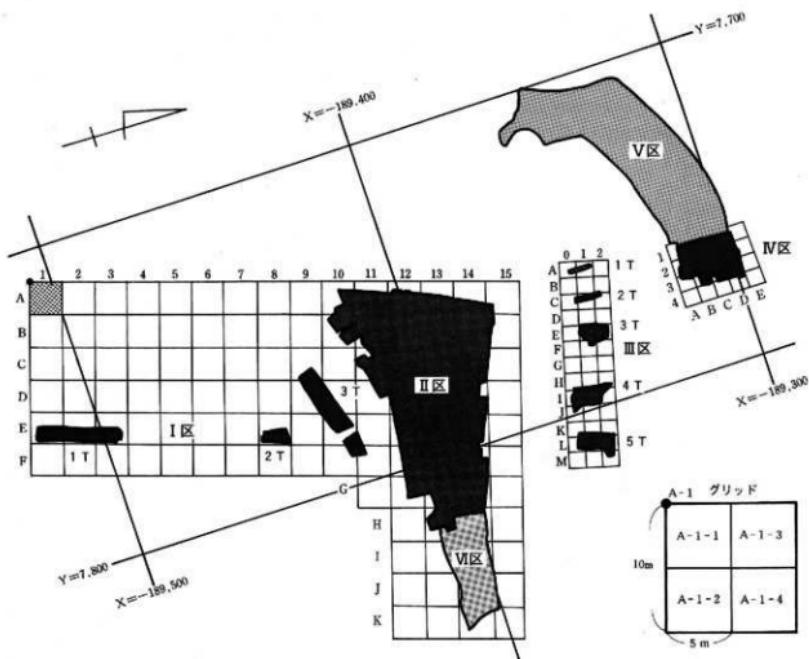
さらに、調査区外に延びる地表顕在の遺構については、1/100平板略測図を作成し、写真で記録化した。

調査区全体図については、4月中旬にラジコンヘリによる現況写真撮影を行い、10月12・13日と11月28日には発掘調査後の航空写真測量を行い、25cm間隔の等高線を記した縮尺1/200の現況地形測量図及び1/100遺構平面図を作成した（付図）。

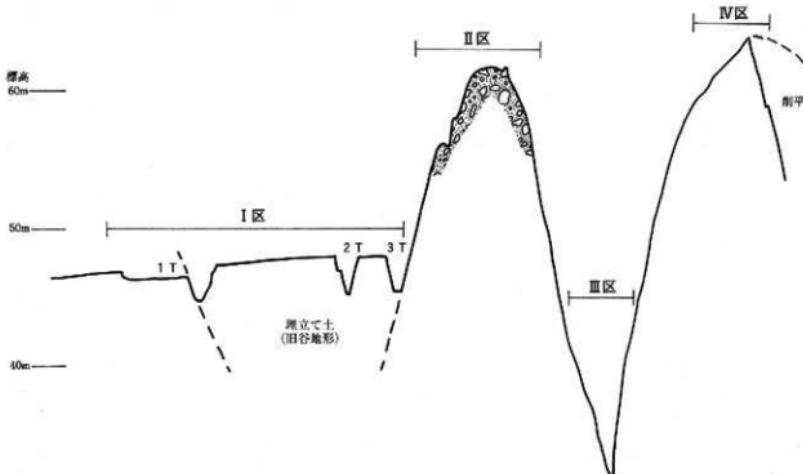
### 【調査経過】

まず、4月下旬に調査対象地南側で、丘陵裾部までの平坦地であるI区に3箇所4本の試掘トレンチ（以下、Tと略す）を設定し、重機を用いて遺構確認調査を実施した。都山計画道路の計画中軸線の東側に、幅4m、長さ33m、面積約130m<sup>2</sup>の南北方向の1トレンチ（以下、1Tと略す）を設定した。南端では現地表から30cmの深さで、重機による掘削痕のある岩盤面を検出し、この岩盤面は北側へ徐々に深くなり、谷部の肩から急激に落ち込んでいくことを確認した。旧地形の尾根にあたる部分の試掘を行ったが、岩盤上の旧表土は削平されてなく、東西方向の谷の落ち込みを確認した。この周辺の覆土は鶴ヶ谷団地造成時の埋立て土とみられる。I区北寄りの地点に幅4m、長さ9m、面積約36m<sup>2</sup>の東西方向の2Tを設定し、現地表から3mの深さまで重機で掘り下げたが、埋め立てられ

I 調査経過



第8図 調査区と座標系



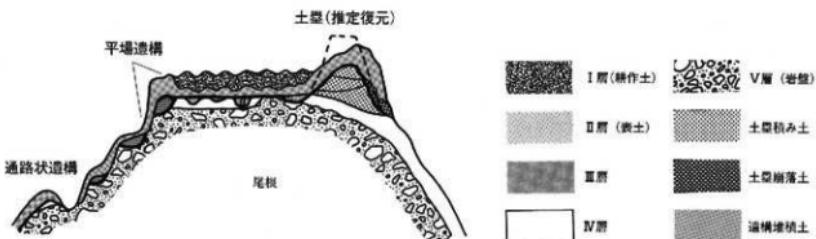
第9図 調査区縦断模式図（道路中軸線）

た谷地形の上部にあたり、1Tと同様に造成時の埋立て土であることを確認した。さらにI区北端、尾根の裾部に東西方向に20×5m、8×5mの2本、計約140m<sup>2</sup>の3Tを設定し、尾根の斜面に沿って10cm前後の旧表土層を確認したが、斜面は45度以上の急勾配で南側に落ち込み、約2.5mの深さまで掘り下がったが遺構を確認できなかった。以上の調査結果から、I区は团地造成により、旧地形が削平または土砂で厚く埋め立てられていることを確認し、本調査の対象から除外した。

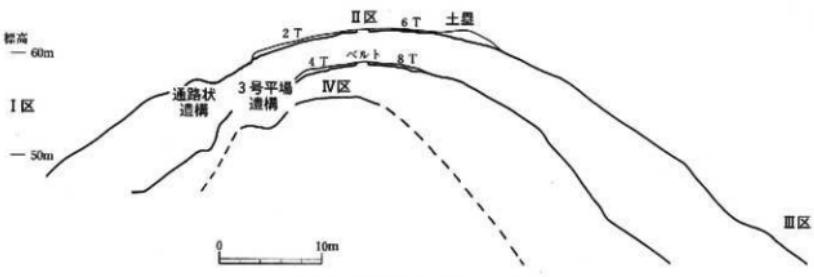
I区の北側、調査対象地の中央で東西方向に延びる尾根をII区とし、尾根上の調査区約2,000m<sup>2</sup>を格子状に1～8Tに区画し、5月10日から調査区西側の試掘トレンチで堆積状況を確認した上で、調査区全体の表土排除を行い、調査を開始した。5月22日、2・3Tの南側斜面と6・7Tの北側斜面を土捨て場に設定し、6月1日、尾根上の調査区の乾燥を防ぐための散水ポンプを準備した。尾根上の平坦部分の遺構を検出して精査の後、8月から尾根の南側の平場遺構・通路状遺構の精査に着手した。その結果、これらの遺構が尾根の南側斜面に延びていることから、新たに9・10Tを設定して精査を行った。また工事区域外ではあるが、II区の南東部斜面、及び、東側の尾根上にも段状に平場遺構・通路状遺構が延びていたため、尾根の東端部を新たにVI区として、9月下旬から遺構現況調査を行った。

II区では、掘立柱建物跡や柱列、溝跡、土塁、平場遺構、通路状遺構、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、ピットなどの遺構を検出し、繩文土器、土師器、土師質土器、瓦器、磁器、砥石、笄などを出土した。12月1日に調査を終了した。

II区の尾根北側に位置する谷部をIII区とし、5月8日、調査区西側から1～5T、約300m<sup>2</sup>を設定し、精査を開始した。重機を使用して沢底を検出し、3・4TではV字状の沢底の肩部に幅0.5～1.5m程の平坦部を確認し、通路



第10図 基本層序模式図（II区）



第11図 II・VI区尾根断面見通図

であった可能性がある。ロクロ土師器、磁器、寛永通宝、鉄砲玉、砥石を出土した。5月24日に調査を終了した。

北側の尾根のIV区では、5月15日から試掘を開始、5月24日から樹根の掘起し作業に着手し、1~4T・約190m<sup>2</sup>を設定し、精査を開始した。斜面上部、尾根縁辺部にあたる1・2Tの北側と東側で区画をなす壘状の高まりと、3・4Tで斜面を斜行する通路状遺構を確認した。III層上面では、ピットや倒木痕などを検出し、7月26日からはIV層上面の調査に移って土坑やピットを検出し、土師質土器、土師器、繩文土器を出土した。8月23日に調査を終了した。

IV区の通路状遺構は西側に延びており、5月31日、新たにV区を設定し、草刈を行った上で、現況の地形測量調査を6月7日まで行った。その結果、現況で通路状遺構の他、平場や壘状の区画、堀切や土塁、通路状を呈する人工的な地形を確認したが、工事による遺構の削平を受けないため、表面観察にとどめている。

普及活動として、8月24日に鶴ヶ谷中学校1~3学年の生徒14名、社会科教師2名による発掘体験学習を実施した。事前に発掘調査や遺跡の概要を説明した後、6グループに分けてII区で実施した。学習した成果については、参加した生徒たちにより中学校の文化祭で展示発表がなされた。11月8日には、鶴ヶ谷東小学校2学年の児童107名による遺跡見学会を実施した。事前に簡単な概要説明をし、発掘調査の様子や遺跡を見学した。児童からの多数の質問が出され、担当職員がわかりやすく説明した。事後の感想文には、発掘調査という仕事や昔の生活、地域の歴史について関心が抱かれたことなどが記され、生活科の学習として成果があったものとみられる。発掘調査成果については、9月27日に報道発表を行った上で、9月30日に現地説明会を実施し、約350名の市民の参加を得た。

調査終了後、12月4日に出土遺物や実測図面を泉整理室へ移動し、12月23日、現場事務所の解体を終了した。

## 5. 基本層序

遺構の検出は、調査地全体に繁茂していた雑木林を伐採・撤去し、その後、地層の堆積状況を確認する試掘調査を行った。堆積層が厚い谷地形であるIII区については、重機を用いて表土層を除去して精査した。その結果、流水の影響を受け、土砂の混入が著しい谷部のIII区は、各トレンチで複雑な地層の堆積状況を呈した。

尾根上のII区では、畑として利用された畝状の耕作痕跡が平坦面で確認され、その層の厚さも薄かったため、人力で表土を除去し遺構確認を行った。基本層序は模式図（第10図）に示すように、表土（I層）、耕作土（II層）、旧表土層（III層）、漸移層（IV層）、地山となる凝灰岩質砂岩系の岩盤（V層）の堆積状況であった。

谷をはさんだ北側の尾根上のIV区については、傾斜地で周辺が杉の植林地であり、また、重機が登ることができない急な斜面であったため、人力で表土を除去し、遺構確認を行った。踏み跡や植林地を区画する壘状の盛り土遺構を確認し、表土（I層）、旧表土（II層）、漸移層（III層）、地山（IV層）となる堆積状況であった。



発掘体験学習（鶴ヶ谷中学校）



現地説明会



## II 検出遺構と出土遺物

### 1. 検出遺構

II区、III区、IV区の発掘調査で検出した遺構には、柱列8列、掘立柱建物跡2棟、溝跡10条、竪穴住居跡1軒、土坑11基、焼土遺構2基、土壙1基、平場遺構5ヶ所、通路状遺構2ヶ所、性格不明遺構9基などがある。

V区とVI区の地表頭在の遺構調査では、中世城郭に特有の形状である、堀切や虎口、上堀、通路状遺構などの可能性のある地形を確認している。

#### 1) II区

II区では、調査区を上層観察用のベルトで1~8Tに区分し、耕作土(I層)と表土(II層)、旧表土(III層)を除去し、地山岩盤(V層)もしくは漸移層(IV層)上面で遺構確認を行なった。検出した遺構のうち、主な遺構について記述する。

##### 【柱列】

**SA-01柱列** 1T南西端の平坦な地山上面で検出した。柱穴4個からなる東西柱列(方向:E-20°-N)で、柱穴は直径39~54cm、深さ26~30cmで、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は242~281cm、総長7.8mを測る。SB-01掘立柱建物跡の南辺柱列と近接し、南西角柱穴に切られる。

**SA-02柱列** 6Tで検出。南辺寄りの東に緩やかに傾斜する地山上面で検出した。柱穴5個からなる東西柱列(方向:E-1°-S)で、柱穴は小円形を呈し、直径10~36cm、深さ19~28cmで、検出した地山面からの深さがほぼ一定で、地山面の傾斜は構築時の状況を反映している。堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は210~289cm、総長9.6mを測る。この柱列の東方向には、SB-02掘立柱建物跡の行列とSA-08柱列がほぼ同じ方向に並び、同一基準で構成された遺構群とみられる。

**SA-03柱列** 2T、東に緩やかに傾斜する地山上面で検出した。柱穴4個からなる東西柱列(方向:E-5°-N)で、柱穴は直径9~12cmと小型であるが1基のみ27cmであり、深さ8~12cmの小ピットで杭列とみられ、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は115~147cm、総長4.0mを測る。2TのSA-04、SA-07とほぼ一直線状に並び、同一遺構の可能性がある。

**SA-04柱列** 2T、東に緩やかに傾斜する地山上面で検出した。柱穴5個からなる東西柱列(方向:E-4°-N)で、柱穴は直径8~16cmと小型であり、深さ8~10cmの小ピットで杭列とみられ、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は98~126cm、総長4.7mを測る。2TのSA-03、SA-07とほぼ一直線状に並び、同一遺構の可能性がある。

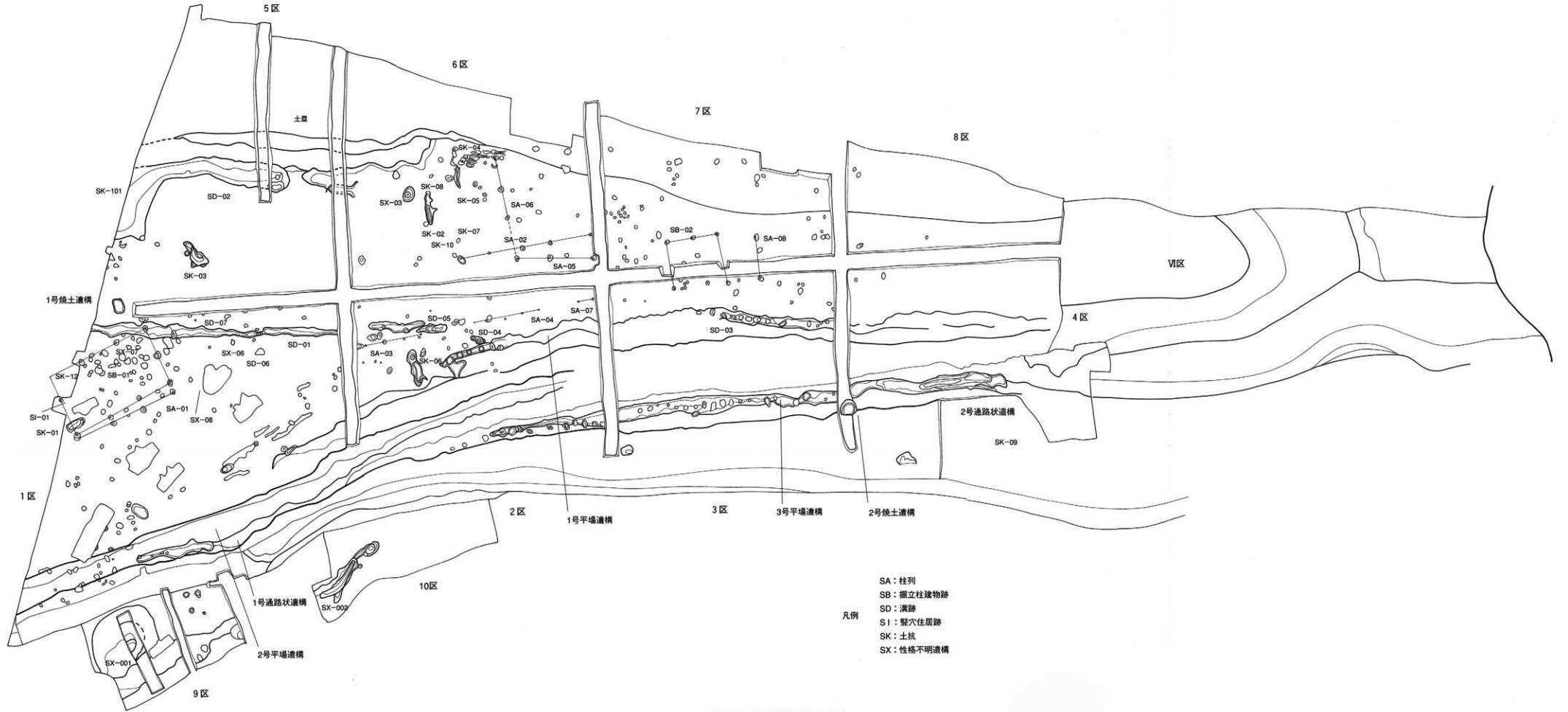
**SA-05柱列** 6T、東に緩やかに傾斜する地山上面で検出した。柱穴3個からなる東西柱列(方向:E-4°-S)で、柱穴は楕円形を呈し、直径33~40cm、深さ19~25cmで、検出した地山面からの深さがほぼ一定で、地山面の傾斜は構築時の状況を反映している。堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は238~312cm、総長5.5mを測る。

**A-06柱列** 6T、北側へ約9度の勾配で傾斜する地山上面で検出した。柱穴3個からなる南北柱列(方向:N-6°-W)で、柱穴は楕円形を呈し、直径34~43cm、深さ25~38cmで、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は217~232cm、総長4.6mを測る。この南延長方向にはSA-05柱列の西端が交差または連結する可能性がある。北端の柱穴がSK-04土坑を切っている。

**SA-07柱列** 2Tで検出した。柱穴2個からなる東西柱列(方向:E-3°-N)で、柱穴は直径10~14cmと小型であり、深さ9~19cmの小ピットで杭列とみられ、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は113cm、総長1.1mを測る。2TのSA-03、SA-04とほぼ一直線状に並び、同一遺構の可能性がある。

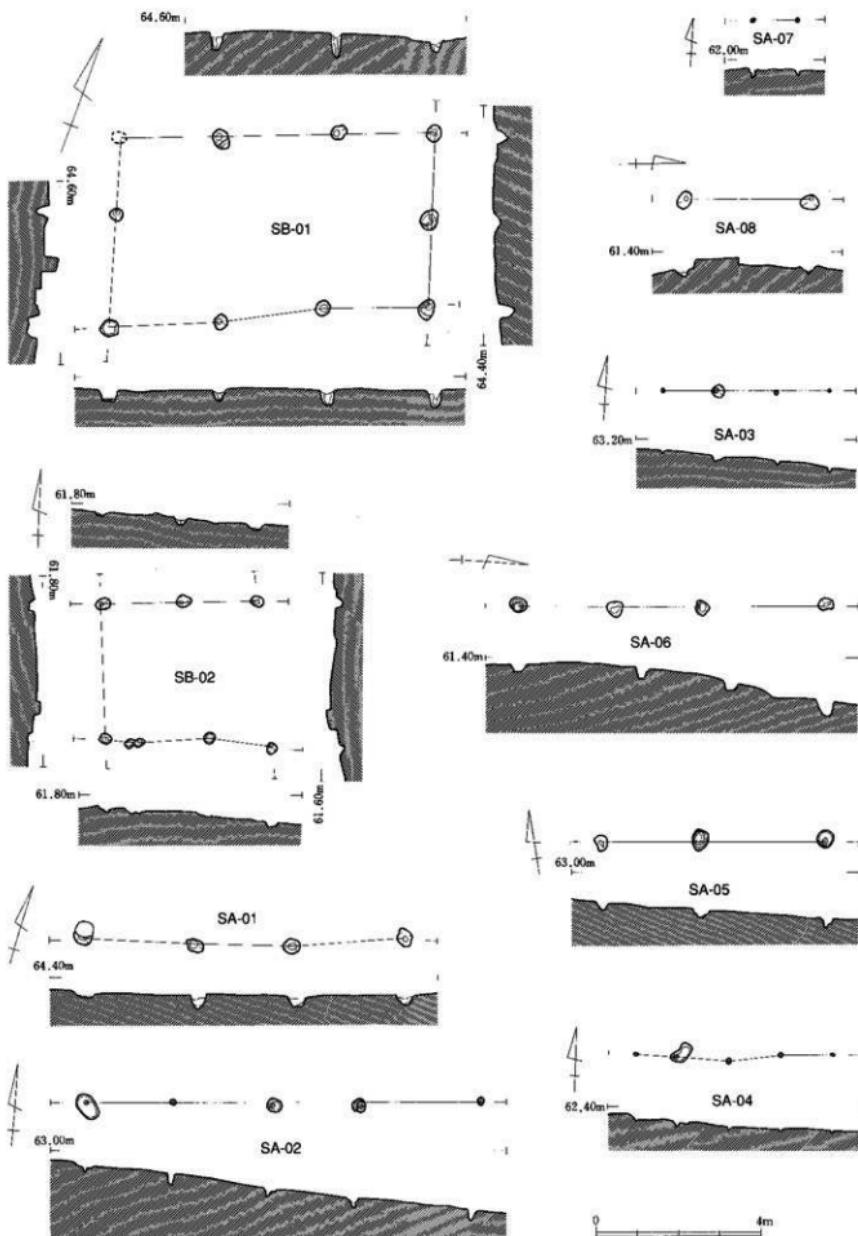
**SA-08柱列** 3~7T、尾根の中央やや東、緩やかに傾斜する地山上面でSB-02掘立柱建物跡の東側に並行して検出した。柱穴2個からなる南北柱列(方向:N-1°-E)で、柱穴は直径34~46cm、深さ20~22cm、柱痕跡は直径6~12cm、深さ5~10cmと小型で杭列とみられ、堆積土は黒褐色シルトで、柱間寸法は300cm、総長3.0mを測る。SB-02掘立柱建物跡の底痕跡となる可能性がある。





第12図 II区遺構平面図 (1/200)

II 掘出遺構と出土遺物



第13図 II区掘立柱建物跡・柱列実測図

掘立柱建物跡柱穴・柱間寸法表

測定番号	柱穴記号	幅( cm )	深さ( cm )	柱間寸法( cm )		測定番号	柱穴記号	幅( cm )	深さ( cm )	柱間寸法( cm )	
				柱間距離	柱間距離					柱間距離	柱間距離
SA-01 (E-20'-N)	R 1	45	- 26	E 1 ~ E 2 : 261	-	SA-07 (E-17'-N)	W 1	15	19	W 1 ~ W 2 : 113	-
	E 2	46	- 26	E 2 ~ E 3 : 242	-		W 2	10	9	W 2 ~ W 3 : 113	-
	E 3	39	- 36	E 3 ~ E 4 : 281	-		S 1	34 ( 12 )	20 ( 10 )	S 1 ~ S 2 : 300	-
SA-02 (E-17'-S)	K 4	54	- 30	-	-	SA-08 (N-17'-E)	S 2	46 ( 6 )	22 ( 4.5 )	S 1 ~ S 2 : 300	-
	W 1	19	- 19	W 1 ~ W 2 : 261	-		E 1 ~ S 1	40 ( 9 )	42 ( 20 )	E 1 ~ S 1 ~ E 2 ~ S 1 : 290	-
	W 2	16	- 28	W 2 ~ W 3 : 290	-		E 2 ~ S 1	36 ( 9 )	38 ( 20 )	E 2 ~ S 1 ~ E 3 ~ S 1 : 263	-
	W 3	36	- 23	W 3 ~ W 4 : 281	-		E 3 ~ S 1	36 ( 12 )	28 ( 16 )	E 3 ~ S 1 ~ E 4 ~ S 1 : 269	-
	W 4	29	- 23	W 4 ~ W 5 : 291	-		E 4 ~ S 1	48 ( 13 )	26 ( 4 )	E 4 ~ S 1 ~ E 1 ~ S 2 : 226	-
SA-03 (E-5'-N)	W 5	19	- 27	-	-	SB-01 (北側: E-20'-N) (南側: E-23'-N)	E 1 ~ S 2	48	15	E 1 ~ S 2 ~ E 4 ~ S 2 : 212	-
	E 1	9	8	E 1 ~ E 2 : 137	-		E 4 ~ S 2	28	30	E 4 ~ S 2 ~ E 1 ~ S 2 : 214	-
	E 2	12	12	E 2 ~ E 3 : 147	-		E 1 ~ E 3	32 ( 6 )	28 ( 5 )	E 1 ~ S 2 ~ E 4 ~ S 2 : 246	-
	K 3	27	12	E 3 ~ E 4 : 147	-		E 2 ~ S 3	29 ( 10 )	62 ( 20 )	E 2 ~ S 3 ~ E 2 ~ S 3 : 287	-
SA-04 (E-4'-N)	E 4	10	12	E 3 ~ E 4 : 116	-		E 3 ~ S 3	38 ( 10 )	44 ( 22 )	E 3 ~ S 3 ~ E 1 ~ S 3 : 287	-
	E 1	8	8	E 1 ~ E 2 : 124	-	SB-02 (北側: E-2'-N) (南側: E-2'-S)	E 1 ~ S 1	18	16	E 1 ~ S 1 ~ E 2 ~ S 1 : 166	-
	E 2	11	8	E 2 ~ E 3 : 126	-		E 2 ~ S 1	26	4	E 2 ~ S 1 ~ E 3 ~ S 1 : 236	-
	E 3	11	8	E 3 ~ E 4 : 125	-		E 3 ~ S 1	30 ( 12 )	16 ( 6 )	E 3 ~ S 1 ~ E 1 ~ S 2 : 186	-
	K 4	16	10	K 4 ~ K 5 : 94	-		E 1 ~ S 2	32 ( 10 )	16 ( 6 )	E 1 ~ S 2 ~ E 2 ~ S 2 : 196	-
SA-05 (E-4'-S)	E 5	16	8	-	-		E 2 ~ S 2	38 ( 8 )	26 ( 4 )	E 2 ~ S 2 ~ E 3 ~ S 2 : 196	-
	W 1	29	- 20	W 1 ~ W 2 : 238	-		E 3 ~ S 2	38 ( 14 )	12 ( 3 )	E 2 ~ S 2 ~ E 3 ~ S 2 : 196	-
	W 2	40	- 19	W 2 ~ W 3 : 312	-	-	-	-	-	-	-
SA-06 (N-6'-W)	W 3	33	25	-	-	-	-	-	-	-	-
	SA-06-W 1	29	- 30	W 1 ~ S 1 : 301	-	-	-	-	-	-	-
	S 1	34	27	S 1 ~ S 2 : 217	-	-	-	-	-	-	-
	S 2	36	25	S 2 ~ S 3 : 238	-	-	-	-	-	-	-
SA-07 (N-6'-W)	S 3	43	38	-	-	-	-	-	-	-	-

## 【掘立柱建物跡】

SB-01掘立柱建物跡 1 T、調査区西端の平坦な地面上で検出した。北西隅柱は査定区外となり確認できなかったが、東西3間・南北2間の東西棟である。柱穴9基を確認し、南側の桁行は7.9m、方向はE-23°-N、北側の桁行は5.4m以上、方向はE-20°-Nで、東側の梁行は3.3m、方向はN-29°-Wを測る。円形ないしは不整形の9個の柱穴は直径26~48cm、深さ15~62cm、桁行で確認した柱痕跡7個は直径6~19cm、深さ4~50cmと様々で、桁行の柱間寸法は248~287cmで、梁行の柱間寸法は212~274cmを測り、一定でない。南側桁列南西角柱穴がSA-01柱列を切っている。

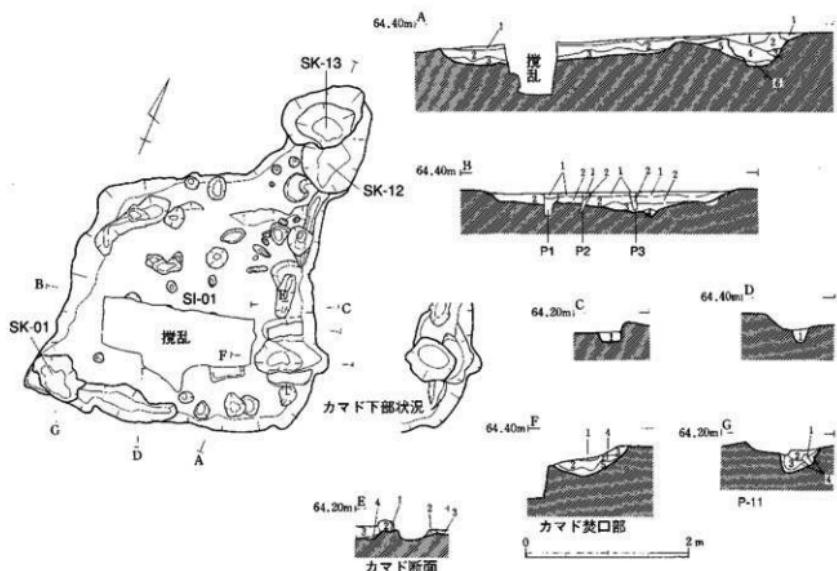
SB-02掘立柱建物跡 II区中央、3・7Tで検出した。東西2間・南北1間の東西棟である。柱穴9基を確認し、桁行は南側がE-2°-S、北側がE-2°-Nで、梁行もN-2°-6°-Wと歪みがあって、建物は不整形を呈す。北側桁列3基と南西角の柱穴で、炭化物を含む柱痕跡4基を確認した。柱穴は直徑18~38cm、深さ4~20cm、柱痕跡は直徑8~14cm、深さ5~14cmを呈し、北側桁行の柱間寸法は186~190cm、南側桁行の柱間寸法は160~246cmで、東側梁行の柱間寸法は350cm、西側梁行の柱間寸法は340cmを測る。SA-08柱列と並行し、同一の造構とすれば底などとなる可能性もある。

## 【溝跡】

SD-01溝跡 II区西半、尾根中央平坦部の1・2Tで検出した。東西方向の溝で、方向はE-8°-S、全長26m分を検出した。検出面での上端幅は90cm、下端幅は60cm、底面はほぼ平坦で、深さ5~14cm、断面形は舟底形を呈する。堆積土は大別して3層に分けられ、2層中に炭化物が混入している。5・6Tで検出した土壌状遺構の南側ではほぼ並行して伸びており、この遺構と南北幅12mほどの区画を構成する遺構の可能性もある。SB-01掘立柱建物跡の北東隅の柱穴に切られる。底面から須恵器壺(E-01)と繩文土器を出土している。

SD-02溝跡 II区北西部、尾根北辺の5・6Tで土壌の南裾部に沿って検出した。ほぼ東西方向の溝であるが、土壌に沿って「く」の字状に屈曲して全長13.4m分を検出した。上端幅70~130cmで最大180cm、下端幅60~120cm、深さ15~20cm、断面形は舟底形もしくはV字形を呈し、東端部で浅くなり、消失する。土壌と同時に構築された可能性が高い。

SD-03溝跡 II区中央、2~4Tで検出した。上端幅約100~160cm、下端幅60~120cm、深さ5~20cm、断面形



層位	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR3/4	暗緑	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒を少量含み又は無わずかに3mm程度の円柱ブロックと炭化鉱を含む均質な層
2	10YR3/4	暗緑	シルト	あり	直徑2mm程度の岩礁粒と炭化鉱を少量含む層
3	10YR2/4	暗緑	シルト	ややあり	直徑2~10mm程度の岩礁ブロックを多く含む層
4	10YR2/4	暗緑	シルト	ややあり	直徑2~10mm程度の岩礁ブロックと炭化鉱を少量含む層
5	10YR3/4	暗緑	シルト	ややあり	直徑2~15mm程度の岩礁ブロックと炭化鉱を少量含む層
6	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒を少量含み又は無わずかに炭化鉱を含む層
					他の層に比べて、層厚が薄い層

層位	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR2/4	暗緑色	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒を少量含み又は無わずかに10mm程度の岩礁ブロックと炭化鉱を含む均質な層
2	10YR2/4	暗緑	シルト	ややあり	直徑2~10mm程度の岩礁ブロックを少量含む層
3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑2~15mm程度の岩礁ブロックと炭化鉱を少量含む層
4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒を少量含む層

層位	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR3/3	暗緑	シルト	ややあり	炭化鉱を少量含むが岩礁ブロックはほとんど含まれない層
2	10YR3/1	暗緑	シルト	ややあり	直徑2~5mm程度の岩礁ブロックを含む層で、又特に他の層と比べて炭化鉱が多くかつ粒が大きい層

層位	上色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒と炭化鉱を無わずかに含む均質な層

層位	上色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑2mm程度の岩礁粒と炭化鉱を無わずかに含む均質な層

第14図 II区SI-01鑿穴住居跡実測図

## E カマド断面

層位	上 色	上 質	下 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	SYR4/3 錆い赤褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	窓内内部にて赤褐色、少量の炭化物が計量する。
2	10YR5/4 錆い黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	少量の黒褐色土を粒状に含む。
3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	颗粒の黒褐色土を少量含む。
4	10YR6/8 黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	基底層の4層及び砂岩層が重複する。

## F カマド貯口部

層位	下 色	上 質	下 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4 可塑	シルト	ややあり	あり	直径5mm程度の石骨ブロックと炭化物を含む層
2	10YR6/4 増強	シルト	ややあり	あり	1層に厚さしているが石骨層の上部の粒を含む層
3	7SYR4/4 黄	シルト	ややあり	あり	1、2層に比べ黒褐色が強い層でまばらにSYR4/8(寒暖色)の粒子を含むが炭化物、石骨ブロックはほとんど含まれない層
4	10YR5/3 増強	シルト	ややあり	あり	直径2~10mm程度の石骨ブロックと炭化物を少量含む層
5	10YR6/4 黄	シルト	ややあり	あり	直径5~20mm程度の石骨ブロックと炭化物を少量含む層

## G P-11

層位	下 色	下 質	下 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/3 黄褐色	シルト	ややあり	あり	直徑2mm程度の石骨層と炭化物を含む層
2	10YR6/4 増強	シルト	ややあり	あり	直徑2~10mm程度の石骨ブロックと炭化物を少量含む層
3	10YR4/4 増強	シルト	ややあり	あり	直徑2~5mm程度の石骨ブロックと炭化物を含む層
4	10YR4/4 増強	シルト	ややあり	あり	直徑2mm程度の石骨層と炭化物を少量含みまばらにパリスが含まれる層

は浅い舟底形を呈し、西から東方向に蛇行して伸び、2・3Tの溝跡の底面で直径40~105cm、深さ20~40cm程のビット12枚基を中間距離0.6~20mほどの不規則的な間隔で検出した。3Tで溝跡の堆積土から内黒土師器部の破片3点を出土している。

SD-04溝跡 II区中央、2Tで検出した。東西方向の溝で、方向はN-55°-W、全長1.0m分を検出した。検出面での上端幅は34~56cm、下端幅は8~15cm、底面は凹凸が大きく、深さ12~30cm、断面形は舟底形を呈する。連続する複数のビットからなる遺構の可能性もある。

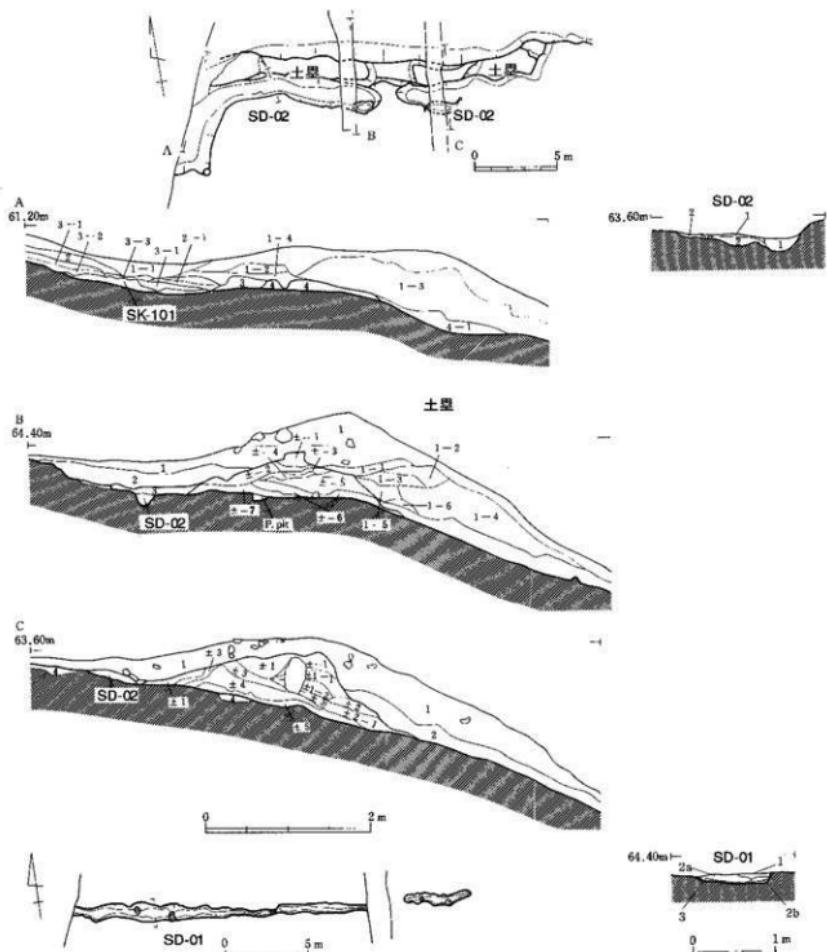
SD-05溝跡 II区中央、2Tで検出した。東西方向の溝で、方向はE-17°-S、全長2.2m分を検出した。検出面での上端幅は30~65cm、下端幅は8~45cm、底面は凹凸が大きく、深さ16~40cm、断面形は不整形を呈する。

SD-06溝跡 II区西部、尾根の最高所の平坦部、1Tで検出した。東西方向の溝で、方向はE-62°-Eで10mほど東に伸びて屈曲し、さらに真東に5m、全長14.9m分を検出した。検出面での上端幅は75~130cm、下端幅は15~110cm、底面はほぼ平坦で、深さ6~13cm、断面形は舟底形を呈する。堆積土は大別して3層に分けられ、岩盤の小片が混入している。SX-06性格不明遺構、SD-07溝跡に切られる。堆積土から炭化物、繩文土器深鉢の体部下半の破片(A-36)を出土している。

SD-07溝跡 II区西部、尾根平坦部の1・5Tで検出した。南北方向の溝で、ほぼ真北方向に伸び、全長6.2m分を検出した。検出面での上端幅は80~285cm、下端幅は48~245cm、深さ8~22cm、南から北に平面形が広がり、浅くなって消失する。溝としての機能を考えがたい遺構である。

## 【竪穴住居跡】

SI-01竪穴住居跡 III区西部、1T、尾根の最高所の平坦面、IV層上面で検出した。平面形は南辺がやや長い不整な方形で、規模は東西3.0~3.4cm、南北3.0mを測る。壁はやや緩やかに立ち上がり、最大高は42cmで、25cmほど深さがあり、3層に区分できる。床面は地山で極めて固くしまりがあり、西壁部がやや高く、北辺部で幅25~60cm、数cmほど一段高い部分が認められる。住居跡内で24個のビットを確認しているが、その配置や深さなどに規則性がなく、建物の主柱穴とは認められない。住居内の全周に断続的に周溝を検出し、断面形はU字形で底面幅は約6cm、床面からの深さは10cmほどである。周溝は南西および北西隅部では不整形を呈し、幅や深さが一定でない。カマドは東壁の南辺よりに位置しており、燃焼部の側壁と両袖部分が残存し、粘性土で構築されている。左袖部の内面は火熱によって赤変し、焼土が付着する。煙道は確認できなかったが、燃焼部壁が住居東辺の外に張り



層位	上部		中間		下部		備考
	土色	土質	粘性	しまり	粘性	しまり	
1 10YR4/4 10YR6/6	黄 赤	シルト	ややあり なし	あり なし	1は大の岩塊をわずかに含む 0.5m以上の岩塊を全体に含む		
2 GYR4/4 GYR6/6	暗 赤	シルト	ややあり なし	ややあり なし	2aと2bはより層の人が侵入時 金井に潜り深入る		
3 10YR5/5	赤	シルト	ややあり なし	ややあり なし			

層位	上部		中間		下部		備考
	土色	土質	粘性	しまり	粘性	しまり	
1 GYR4/4 GYR6/6	黄 赤	シルト	なし なし	ややあり ややあり	2aと2bはより層の人が侵入時 岩塊に潜り深入る		
2a GYR4/4 GYR6/6	暗 赤	シルト	なし なし	ややあり ややあり			
2b GYR4/4 GYR6/6	赤	シルト	ややあり なし	ややあり なし			
3 10YR5/5	赤	シルト	ややあり なし	ややあり なし			

第15図 II区土壌・SD-01・SD-02溝跡実測図

土壌セクション図A

層位	土 色	土 質	上 性		備 考
			熱 性	しまり	
1	7.5TR6/1	褐色	シルト	ややあり	なし 古く1~2m大的の塊を少量含む
1-1	7.5TR6/3	褐色	シルト	ややあり	なし 田原地作止
1-2	7.5TR6/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1層よりもやや硬い
1-3	7.5TR6/4	褐色	シルト	ややあり	なし 塊より若干多く含む
1-4	10YR6/4	褐色	シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
2	7.5TR3/2	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
2-1	10YR3/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
2-2	7.5M2/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
2-3	10YR2/3	褐色	粘土質シルト	ややあり	0.5~2cm大的の塊を少量含む。2層よりも硬い
2-4	10YR2/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
2-5	2.5TR6/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
3	7.5TR6/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
4	7.5TR6/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
4-1	7.5TR6/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む
5	7.5TR6/6	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~2m塊を少量含む

土壌セクション図B

層位	上 色	土 質	土 性		備 考
			熱 性	しまり	
1	7.5TR6/3	褐色	シルト	ややあり	なし 3~20cm大的の塊を多量に含み。現代の遺物も少量から耕作に伴う塊と想われる
1-1	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	2cm大的の塊(円錐形)を少量含む。土壌表面
1-2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的の塊(円錐形)を少量含む
1-3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	2~3cm大的の塊(円錐形)を少量含む。土壌表面
1-4	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	3~5cm大的の塊(円錐形)を少量含む
1-5	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~4cm大的の塊(円錐形)を少量含む
1-6	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~3cm塊
2	10YR2/4	褐色	シルト	ややあり	1~5cm大的の塊(円錐形)を少量含む。又、少量の炭化物を含む
2-1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	5cm大的の塊(円錐形)を少量含む
3	10YR3/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	炭化物を多量含む。1~3cm大的の塊(円錐形)を含む
4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	2~3cm大的の塊(円錐形)を少量含む。又よりやや硬い
5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	3cm塊からなる層
6-1	10YR3/3	褐色	シルト	ややあり	1~5cm大的の塊を含む
6-2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~5cm大的の塊(円錐形)を多量に含み炭化物を少量含む
6-3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	風化した1~2cm大的の岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
6-4	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的の岩礫塊をわずかに含み炭化物を極わずかに含む
6-5	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1~7cm大的岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
6-6	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
6-7	10YR3/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	1~5cm大的の岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む

土壌下層構造

層位	上 色	土 質	土 性		備 考
			熱 性	しまり	
SD-02	10YR3/2	褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 1~8cmの岩礫塊を含む
Pt	10YR2/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 5cm大的岩礫塊を極わずかに含む

土壌セクション図C

層位	土 色	土 質	上 性		備 考
			熱 性	しまり	
1	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	なし 3~20cm大的の塊を多量に含み。現代の遺物も含むことから耕作に伴う盛上と思われる
2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的の塊(円錐形)を多量に含む。又、露った木や、風化した岩礫の粒も含む
4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	粒状の塊を多量に含む。又X線回折の岩礫の粒もわずかに含む
5	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	3cm塊からなる層
7-1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	炭化物を極わずかに含む
1-1	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	炭化物を含む
1-2	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	風化した1~2cm大的の岩礫塊の炭化物を少量含む。又X線回折の岩礫の粒も含む
1-3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的の岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
1-4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	1~7cm大的岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
1-5	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
1-6	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1~2cm大的岩礫塊を少量含み炭化物を極わずかに含む
SD-1	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	炭化した岩礫を含む
SD-2	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	炭化した岩礫の塊(直徑3cm)を含む
Pt	10YR2/4	褐色	シルト	ややあり	炭化した岩礫の塊(直徑3cm)を含む

出す。東辺部でSX-07性格不明構造を切り、南西隅部はSK-01上坑、北東隅部ではSK-12土坑に切られ、中央部は幅60×長さ180×深さ60cm、平面長方形の電柱支柱坑掘り方の搅乱を受けている。

### [土坑]

SK-01上坑 II 区南西部、尾根平坦部の1Tで検出した。平面形が溝丸長方形で、東辺部が丸みを帯び、南西角はほぼ直角を呈す。長軸方向はN-33°W、上端は東西方向の長軸138cm、南北方向の短軸56cm、深さ11cm、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は舟底形を呈する。堆積土には炭化物と多量の炭化物を含み、若干の焼土を含むが、壁面には突然による赤変化は認められない。SI-01堅穴住居跡を切っている。

SK-02土坑 6T中央部で検出した。平面形が不整な長楕円形で、東側が膨らみを帯びている。長軸方向はN-22°-E、上端は南北方向の長軸158cm、東西方向の短軸43cm、深さ15cm、壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字形を呈する。堆積土にはわずかに炭化物を含む。

SK-03土坑 II区西部、尾根の最高所の半坦面、5T中央で検出した。平面形は北側が先細りの楕形で南西側に膨らむ不整形を呈する。上端は南北方向の長軸236cm、東西方向の短軸63cm、深さ28cm、壁は全周が緩やかに立ち上がり、中央部で落ち込み、断面形は不整形を呈する。堆積土にはわずかに炭化物と焼土を含む。

SK-04土坑 6Tの北側で検出した。平面形は略円形を呈する。上端は東西・南北方向ともに約4.0m、深さは最深部で80cm、壁は全周が緩やかに立ち上がり、堆積土はレンズ状の堆積状況をなしており、3層中には基本層Ⅲ層とみられる土砂も認められる。倒木痕である可能性がある。SK-06に切られ、内黒土師器壺を出土している。

SK-05土坑 6Tの北側で検出した。SK-06に切られ、平面形は三日月形を呈する。上端は3.9m、深さは最深部で10cm、堆積土には灰白色火山灰の可能性がある土砂の堆積もみられ、縄文土器を出土している。

SK-06土坑 2Tで検出した。平面形は長楕円形を呈する。長軸方向はN-43°-Eで、上端は南北262cm、東西72cm、壁は尾根側で柱穴状に深く、最深部の深さは43cmである。堆積土に岩盤ブロックと炭化物を含む。

SK-07土坑 6Tの中央、SX-03性格不明遺構の南東隅部に接して検出した。平面形は不整形を呈し、南西辺が直んでいる。長軸105cm、短軸87cmを測り、壁は南壁で垂直に立ち上がり、48cmほどである。堆積土は4層に分層され、炭化物を含んでいる。

SK-08土坑 6Tの北側、SX-03性格不明遺構の東辺を切って検出した。平面形は不整形を呈し、長軸150cm、短軸145cmを測り、東よりで断面形が舟底形で長方形に落ち込む。堆積土は3層に分層され、東壁はSK-05土坑に切られている。

SK-09土坑 4Tの南東、尾根の南側斜面で検出した。平面形は略円形を呈し、南側に広がっている。東西方向の長軸138cm、南北方向の短軸84cmを測り、壁は緩やかに立ち上がり、深さは18cmほどである。堆積土は2層に分層され、炭化物を含んでいる。

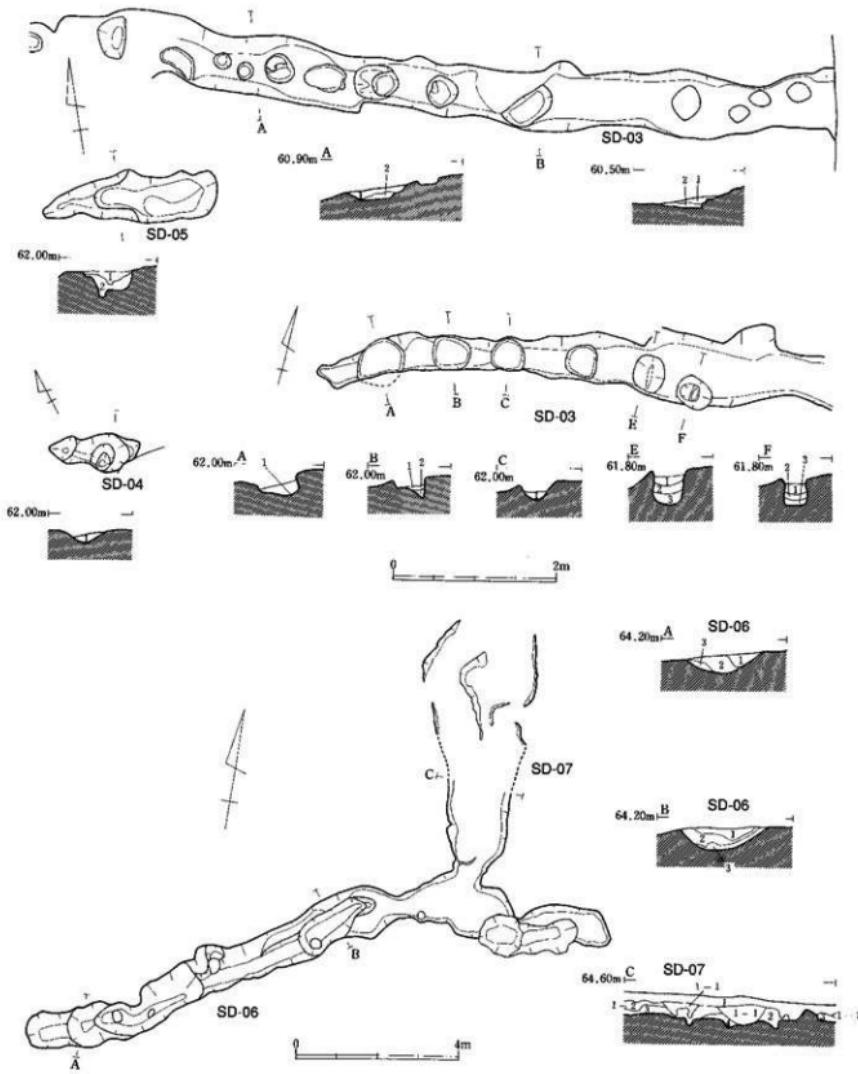
SK-10土坑 6Tの中央、SX-03性格不明遺構の南東部を切って検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、南北方向の長軸164cm、短軸62cmを測り、壁は北壁以外では垂直に立ち上がり、深さは48cm、最深部で60cmである。堆積土は5層に分層され、炭化物を含んでいる。

SK-11土坑 3Tの南西部、尾根の南側斜面で検出した。平面形は円形を呈している。規模は88×74cmを測り、壁は尾根側で急に立ち上がり、深さは32cmほどである。堆積土は2層に分層される。

SK-12土坑 1T西部、SI-01堅穴住居跡の北西部で検出した。当初は、堅穴住居跡の一部として精査していたが、住居跡の北東隅部で住居跡を切っている遺構であることが判明した。平面形は楕円形で、東西方向の長軸124cm、短軸75cm、深さ32.5cmを測る。壁は垂直に立ち上がり、堆積土は1層である。SK-13土坑に切られる。縄文土器深鉢を出土している。

SK-13土坑 1T西部、SI-01堅穴住居跡の北西部で検出した。当初は、SK-12土坑と同様に堅穴住居跡の一部として精査していたが、住居跡の北東隅部で住居跡を切っている遺構であることが判明した。平面形は不整楕円形で、南北方向の長軸107cm、短軸70cm、深さ42cmを測る。壁は途中で段をもって立ち上がり、堆積土は4層で、縄文土器を出土する。SK-12土坑を切っている。

SK-101土坑 5T西壁部、SD-02溝跡の底面で遺構の東半部を検出した。平面形は楕円形で、南北208cm、東西124cm以上、深さ15cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈す。堆積土は2層で、SD-02溝跡に切られている。縄文土器深鉢（A-3・20・23）を出土している。



第16図 II区SD-03・04・05・06・07溝跡実測図

## SD-03 A

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4 塗装	シルト	なし	なし	右側部分に1~10cm程度の細かな礫を含む、又無むずかしい炭化物を含む
2	10YR6/4 無	シルト	なし	ややあり	中央より左側には最大直径60cmの礫を1つと10~30mm程度の礫を2~3合む。右側には2~5mm程度の細かな礫が少數含まれている

## SD-03 B

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/2 黒褐色	シルト	ややあり	なし	苔層黑色土。5~10mm程度の礫を無むずかに含む、又無むずかしい炭化物を含む。土質はセクション1の1とはほぼ同じ
2	10YR6/4 無	シルト	なし	ややあり	右側には10~30mmの砂岩ブロックを数個含む。又砂岩ブロックの周辺で苔層黑色土の進入がむずかしく見られる。土質はセクション1の2とはほぼ同じ

## SD-03 底面ピット (A・B・C・E・F)

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4 無	シルト	ややあり	あり	底径5~20cm程度の砂岩ブロックを少許含む
2	10YR5/4 細い黄褐色	シルト	ややあり	あり	底径10mm程度の砂岩ブロックを含む有る無し層
3	10YR6/4 細い黄褐色	シルト	ややあり	あり	3層に断続しているが砂岩ブロックを含むない層

## SD-05

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/3 塗装	シルト	ややあり	あり	底径5~20cm程度の砂岩ブロックを少許含むだけで、それ以外はブロックの進入が見られない均質な層である
2	10YR6/4 無	シルト	ややあり	ややあり	底径20~50cm程度の砂岩ブロックを少許含む

## SD-04

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
-1	10YR5/3 塗装	シルト	ややあり	ややあり	5~10cm(最大直径40cm)の礫を含む

## SD-07 C

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4 塗装	シルト	ややあり	あり	底径2~5cm程度の砂岩ブロックを少許含む域で、土層と並われる
1-1	10YR6/4 無	シルト	ややあり	あり	底径2~10cm程度の砂岩ブロックを少許、炭化物を無むずかに含む域で、底層は作土と思われる
1-2	10YR4/3 細い黄褐色	シルト	ややあり	あり	底径2~20cm程度の砂岩ブロックを少許、炭化物を無むずかに含む域で、底層は作土と思われる
2	10YR6/4 無	シルト	ややあり	あり	底径10mm程度の砂岩ブロックを多く含み、又炭化物を無むずかに含む域で、底水層(4層)に即似すると思われる
3	10YR4/3 細い黄褐色	シルト	ややあり	あり	底径2~30cm程度の砂岩ブロックを少許、炭化物を無むずかに含む域で、底水層(4層)に即似すると思われる
4	10YR5/4 細い黄褐色	シルト	ややあり	あり	底径2~20cm程度の砂岩ブロックを多く、炭化物を無むずかに含む層

## SD-06 A

部位	土 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR4/6 緑	シルト	なし	あり	既に火氣が少く劣質な層。2mm以下の細かな炭化物を無むずかに含む
2	10YR4/6 無	シルト	ややあり	あり	1~10cm(最大直径20cm)の礫を無むずかに含んでおり、又2mm以下の中細かな炭化物を無むずかに含まれている
3	10YR6/4 緑	シルト	ややあり	ややあり	3~30mm程度の層を少許含んでおり、又2mm以下の中細かな炭化物を無むずかに含まれている

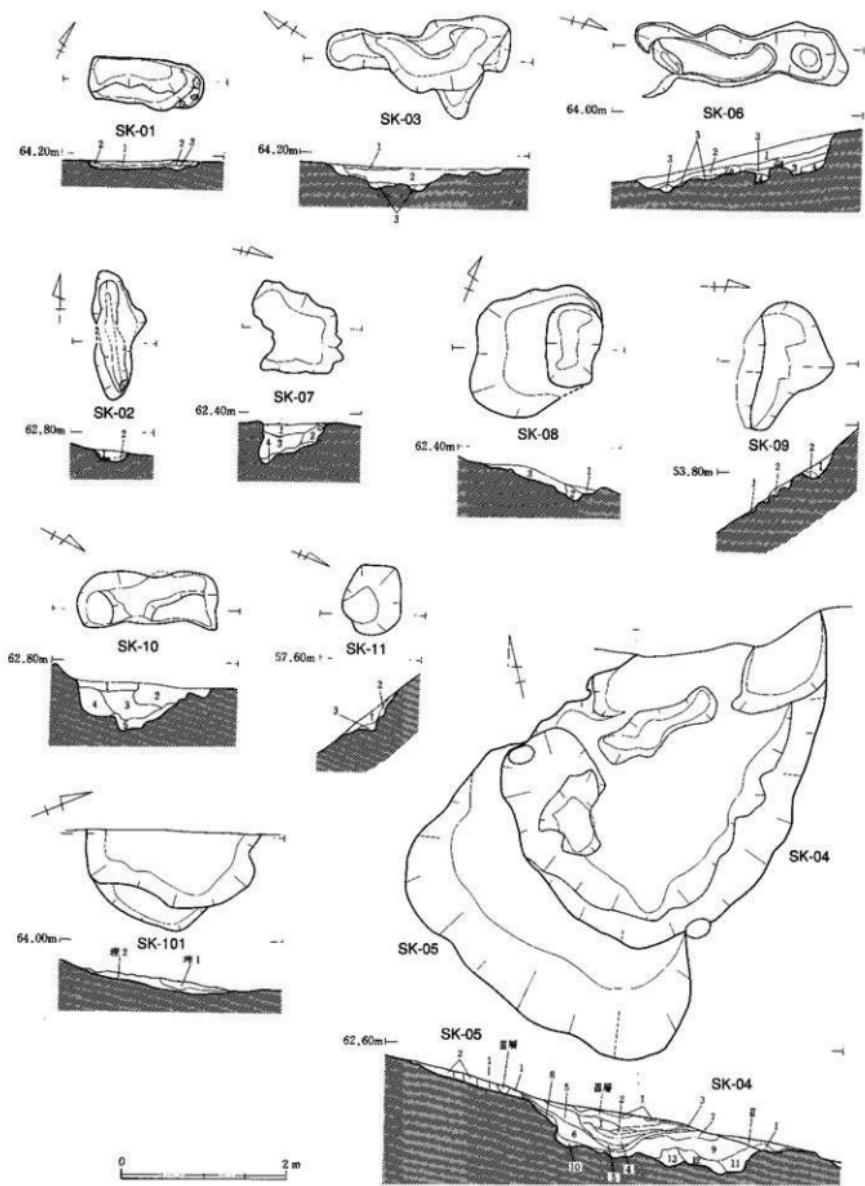
## SD-06 B

部位	上 色	土 質	上 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4 塗装	シルト	ややあり	あり	底径2~5cm程度の砂岩ブロックを少許含み、炭化物を無むずかに含む層
2	10YR4/4 塗装	シルト	ややあり	あり	底径2~10cm程度の砂岩ブロックと炭化物を少許含む層で施設部が見られた
3	10YR4/4 緑	シルト	ややあり	あり	3層に分はしていよいよ底径1~3cm程度の砂岩ブロックを多く含む層

## 【焼土遺構】

1号焼土遺構 Ⅱ区西端、尾根中央の5Tで検出した。平面形が隅丸方形で、東辺がやや膨らむ。長軸方向はN-6°-W、上端は南北方向の長軸240cm、東西方向の短軸152cm、下端幅154×226cm、深さ40cm、断面形は東辺以外の壁が直立しないはオーバーハングを呈する。西壁、特に北西隅部が強く赤変しており、東側は火熱による変化が少なく、炭化物や焼土が周辺に分布することから、焚き口側であった可能性がある。堆積土には多量の炭化物や焼土が含まれ、下層には灰ブロックと純一な炭化層が認められる。底面には炎熱による赤変は認められず、灰の焼きだしを行った可能性がある。上面で縄文土器を出土している。

2号焼土遺構 Ⅱ区南東部、4T、3号平場遺構の肩部で検出した。平面形が不整円形で、東西がやや膨らむ。長軸方向はE-16°-S、上端は東西方向の長軸128cm、南北方向の短軸112cm、下端幅85×70cm、岩盤層(V層)を掘り窪め、深さ68cm、断面形は逆台形を呈する。堆積土には純一な灰層を含み、底面には多量の炭化物が含まれる。一部壁面には炎熱による赤変化が認められる。内黒土師器坏を出土している。



第17図 II区土坑実測図

## SK-01

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR2/1	褐色	シルト	ややあり	わずかな鉄土と多量の炭化物を含み、灰化材（直径30mm~20mm）を含む
2	10YR2/2	褐色	シルト	ややあり	1割より黒みが強く、大量の灰化材（直径30mm~40mm）を含む。又鉄土を含む
3	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	地山上の包含層。わずかな炭化物と鉄土を含む

## SK-03

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	粒子の細かな上土で、炭化物をわずかに含む
2	10YR2/3	褐色	シルト	ややあり	粒子の細かな上土で、炭化物（最大直径5mm）と粘土（最大直徑5mm）をわずかに含んでいる。又中央より北側（部中央）に位置するブロック（直徑5~10mm）を最も多く含む
3	10YR3/4	褐色	シルト	ややあり	表面の3層目頂に微粒土（透土、直徑40mm）を含んでおり、又少量の炭化物とわずかな鉄土を含む
4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	上部に粘土ブロック（最大直徑70mm）を多く含み、又炭化した透土と細かな地土をわずかに含んでいる

## SK-06

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	1~2mmの礫を少々含んでおり炭化物をごくわずかに含む
2	10YR4/4	褐色	シルト	なし	上部的には1~2mmの砂を含む
2a	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	20%の中に非常に多量の粘土を含み、また5~10mmの小さな礫を少々含んでいる
3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	0~2mm（最大直徑6mm）程度の砂を多く含む。個別部分には2mmの礫人がわずかに見られる
4	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	粘土が頗るく可塑的。断面的には1~3mm程の細かな礫を極少ののみ含む

## SK-02

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR4/3	褐色	シルト	ややあり	炭化物を極わずかに含み、又5~50mmの苔類繊維を多量に含む
2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	炭化物を極わずかに含み、又5~50mmの苔類繊維を極わずかに含む

## SK-07

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR5/4	褐色	シルト	なし	ややあり 3~20mm（最大直徑90mm）の礫の繊維を多量に含み、又炭化物を極わずかに含む
2	10YR5/4	褐色	シルト	なし	5~10mm程の繊維を多く含んでおり、以上の部分には最大直徑10mmほどの大きな内子を1つ含んでいる
3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	10mmほどの繊維を少々含んでおり、又わずかな炭化物を含んでいる
4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	最大の繊維がわずかに含まれている以外は、面の下部の半分とほぼ同じであるがより粒子が細かく粘性が強い

## SK-08

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	ややあり 3~10mmの繊維を極わずかに含んでおり、炭化物を極わずかに含む
2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	10~20mmの繊維を極わずかに含んでおり、上部繊維には黑色土（10YR5/2褐色）の繊維人がわずかに見られる
3	10YR4/4	褐色	シルト	なし	10mmほどの繊維を含んでおり、2~10mm程の繊維を少々含んでおり、又わずかな炭化物を含んでいる
4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	最大の繊維がわずかに含まれている以外は、面の下部の半分とほぼ同じであるがより粒子が細かく粘性が強い

## SK-09

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR2/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり 5~10mm程度の繊維を含む。面周上と重われる
2	10YR2/3	褐色	シルト	ややあり	炭化物を多く含み黒色が強く繊の上面に黒い色が見える

## SK-10

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR5/4	褐色	シルト	ややあり	ややあり 1~30mmの小なき繊を多量含んでおり、又2mm（最大直徑30mm）以下の繊かな炭化物を極わずかに含んでいる
2	10YR5/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 1~10mm（最大直徑40mm）の繊を多量に含んでおり、繊の上部には部分的に黑色土（10YR5/2褐色）の繊人がわずかに見られる
3	10YR4/4	褐色	シルト	あり	なし 繊維が強く、遠くなるにつれ粘性はややなくなる。（粘性△→△） 1~5mm（最大直徑50mm）の繊を極わずかに含む
4	10YR5/6	褐色	シルト	ややあり	ややあり 5~10mmの繊維が複数含まれている。又1~5mmの繊を含んでいる
5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 5~10mmの繊維が複数含まれている。繊の土質は2、3に近い。また1~3mmの糸状な繊を含んでいるが部（粘土ブロック）周辺にはほとんど含まれていない

## SK-11

層位	土色	土質	土性		備考
			粒性	しまり	
1	10YR2/2	褐色	シルト	ややあり	なし 日照地性。3層と層する付近で直徑10~20mmの岩盤ブロックを2、3箇所含む
2	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	なし 岩盤ブロックの塊入しない直層を切
3	10YR2/4	褐色	シルト	なし	ややあり 上層では岩盤の土が侵入している。岩盤ブロックはほとんど含まない

SK-04

番号	土 色	土 质	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
II 10YR6/2	黒い黄土	シルト	ややあり	あり	鉱物の風化した粒が全体的に多く含まれる。又表面から土質十層が剥離している
II 10YR2/2	黒褐	シルト	ややあり	あり	5~10cm人の風化した粘土の粒を含む
I 10YR4/4	褐	シルト	ややあり	あり	5~10cm人の風化した岩盤の粒を含む。又5mm大粒度までの鉱物の粒を極わずかに含む
2 10YR6/4	黒い黄土	シルト	なし	あり	In situ ? 硝り物がほんとんど無く、さらさらとした地物である
3 10YR6/4	褐	シルト	ややあり	あり	10cm人の風化した粘土の粒を含む。又5mm大粒度までの鉱物の粒を極わずかに含む
4 10YR2/2	褐	シルト	ややあり	あり	5~10cm人の風化した粘土の粒を含む。又5mm大粒度までの鉱物の粒を極わずかに含む
5 10YR4/4	褐	シルト	ややあり	あり	5mm大粒度までの風化した岩盤の粒を全体的に含む。又5mm大粒度までの鉱物の粒を極わずかに含む
II 10YR4/4	褐	シルト	ややあり	あり	10cm人の風化した粘土の粒を含む。又5mm大粒度までの鉱物の粒を極わずかに含む。表面から根丈十層が剥離している
6 10YR2/4	褐	シルト	ややあり	あり	岩盤粒を含み、粘性を極めて弱い。
7 10YR5/4	褐	シルト	ややあり	あり	堅物を極わずかに含み、鉱物を極わずかに含む
8 10YR5/4	黒い黄土	シルト	あり	あり	近傍20m人の風化物を含み、しまりがある
9 10YR5/4	黒い黄土	シルト	ややあり	無い	表面から根丈十層が剥離している。少量の鉱物を含む
10 10YR4/4	褐	シルト	あり	ややあり	堅物を極わずかに含み、しまりが弱い
II 10YR4/4	褐	シルト	あり	無い	岩盤粒を含み、又5mm大粒度までの鉱物の粒を含む
12 10YR5/4	黒い黄土	砂質シルト	ややあり	あり	等の北側面に堅物を多く含み、しまり強い
13 10YR5/4	黒い黄土	砂質シルト	ややあり	ややあり	堅物を多く含み、鉱物を極わずかに含む
II 10YR4/4	褐	シルト	あり	ややあり	堅物を多く含み、鉱物を極わずかに含む
II 2 10YR4/4	褐	シルト	ややあり	ややあり	5mm人の風化物を含む。鉱物を極わずかに含む
II 2 10YR4/4	黒い黄土	シルト	ややあり	ややあり	堅物を多く含み、鉱物を含む
II 2 10YR4/4	褐	シルト	あり	あり	堅物を多く含み、鉱物を含む

SK-05

番号	土 色	上 质	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1 10YR4/4	褐	シルト	ややあり	無い	岩盤粒を多く含み、砂質のようではあるが、しまりは極めて弱い
2 10YR4/4	黒い黄土	シルト	ややあり	ややあり	堅物20m以上の岩盤粒を含み、粘性は弱い

SK-101

造構	上 色	土 质	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
SK-101 7SYR6/2	褐	粘土質シルト	ややあり	ややあり	泥炭土質を含み、鉄化物を含む

### 【土壌】

II 区北西部、5・6 Tで尾根北側の縁辺部に沿って残存しており、表土・崩落土を除去して検出した。現地表から20~60cm下で上墨上面を検出し、崩落土層は60~80cmの厚さがあった。土墨の北面は現況では約30度の傾斜であったが、精査の結果、土墨の北側は約60度の勾配に切り立っていたことを確認した。耕作等によって遺存状態は極めて悪く、土墨上面は起伏ある状態であった。土墨の方向はE-8.5°-Sで、上端幅86~164cm、下端幅260~338cm、総長20.8m、高さ0.8~1.1m、基底部は幅1.3~3.4mを測る。残存状態のよい部分では、基底部の岩盤地山層（V層）とその上の漸移層（IV層）を残しているが旧表土や整地層は認められず、岩盤塊を含む褐色シルトを互層に盛り土している。土墨構築段階には、旧表土を削平して平坦面を造り出した後、基底部幅を3m、北外側の高さを1.5m、断面台形とするプランで構築し、内側に溝を配した構造が想定できる。土墨積み土や北側の崩落土からは、金製製品群（M-01）や比較的多量の土師質土器灯明皿（D-01など）、剥片石器（K-02・03）などを出土している。

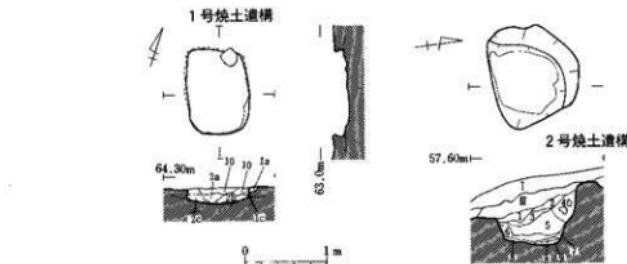
#### 【平場遺構】

南側斜面1Tから4Tにかけて、上・中・下の3段、段状に位置する平場遺構3基を検出した。

1号平場遺構 調査区の中央、2T、尾根の南肩部の最上段で検出した。幅1m、東西方向に長さ9mほど、岩盤の地山の上に岩盤ブロックを含む黒褐色土を盛り土して平坦面を造成している。

2号平場遺構 調査区の西半部、1~2T、尾根の南肩部の2段目で検出した。幅0.4~2.0m、東西方向に長さ22.5mほど、岩盤の地山の上に岩盤ブロックを含む黒褐色土を盛り土して平坦面を造成している。1号平場遺構と類似した構造である。

3号平場遺構 調査区を横断するように1~4T、尾根の南肩部下段で検出したが、さらに調査区東方、VI区まで延び、最大幅3.2m、東西方向に長さ80mほどを確認した。地山の岩盤を削って平坦面を造りだしている。その中央部には溝状に浅く窪み、その底面で浅いビットを検出しており、構造をなす杭列もしくは路面の苔類に関わる遺構の可能性がある。



1号焼土遺構

層位	土色	土質	土性		備考
			筋性	しまり	
1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	少量の炭化物(最大15mm)を含みわざかに埴土を含む。又3mmの繊維を含む。
1b	10YR2/1 黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	わざかの炭化物(2mm以下)を含む。又残りの少ない均質な量である。
1c	10YR3/4 灰褐色	シルト	ややあり	ややあり	わざかの繊維と少量の灰化物を含む。又中央部に厚さ20mmの炭化物を含む。1bと同じく表面に風化の痕がある。
2a	10YR3/2 黑褐色	シルト	ややあり	なし	大量的炭化物と少量の埴土(3mm)を含む。又中央部に細かい灰(3~5mm)をブロックで含み、A下部部分に直径50mmの灰のブロックを作成する。
2b	10YR3/2 黑褐色	シルト	ややあり	なし	大量の炭化物と少量の埴土(3mm)を含む。又中央部に細かい灰(3~5mm)をブロックで含み、A下部部分に直径50mmの灰のブロックを作成する。
2c	10YR17/1 黒	シルト	なし	なし	ほとんど炭化物である。炭化物は最大25mmのものが含まれる。なお、2番の炭化物はa、b、cの数で多くなる。
3	10YR5/1 黒い黄褐色	シルト	なし	ややあり	わざかに炭化物を含む。又表面に風化の痕がある。

2号焼土遺構

層位	土色	土質	土性		備考
			筋性	しまり	
1	10YR3/3 黄褐色	シルト	なし	なし	中央付近より常に風化した5~10mm程度の繊維をわずかに含む。
2	10YR3/2 黑褐色	シルト	なし	なし	中層部(中)。中央より少し風化が進む。(10YR2/2黒褐色)
3	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	上の層に比べるとやや多く、粒子が非常に細かい。
4	10YR3/3 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	上部は粒子が粗くなるものの、上質的にはほぼ同じ。
5	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	同中の部分は同じ。(底: 10YR6/4 黄い黄褐色) 石柱部分の土にも底の土人が少見られる。
6	10YR4/3 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	やや粒子が粗く、中に10~20mmの巻と個人の骨格ブロックを二つ含む。
7	10YR4/3 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	中に1~5mmと20~30mm人の骨格を含み、又上部にわずかな炭化物を含む。
8	10YR3/2 黄褐色	シルト	ややあり	なし	5と同じ土質の中に多量の灰化物と5mmの繊維を含む。
9	10YR5/5 黑褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	粒子が細く、繊維の繊維(2mm以下)を含むが割りがある。

第18図 II区1号・2号焼土遺構実測図

## 【通路状遺構】

尾根の南斜面、1T~4Tにかけて、上下の平場遺構を斜めにつなぐ通路状遺構2基を検出した。

1号通路状遺構 1Tで、下段の通路から上段の1号平場遺構をつないでいる。

2号通路状遺構 4Tで、東へ続く踏み路と一段上の3号平場遺構を連結している。

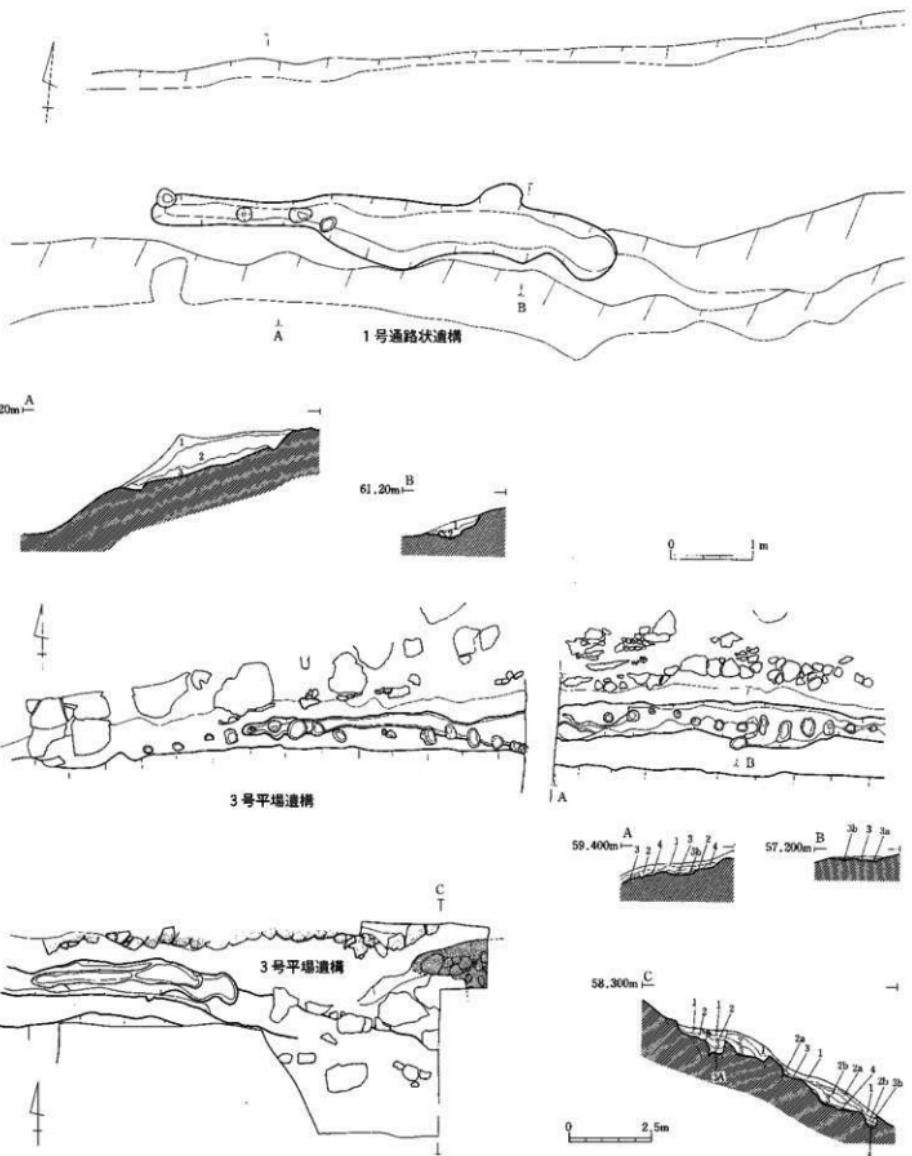
## 【性格不明遺構】

検出した9基の性格不明遺構のうち、主なものについて記述する。

SX-1 性格不明遺構 9T西側、南斜面で検出した。平面形は略円形を呈し、規模は東西約5m、南北約7m、深さ1.0mで、堆積土に基本層Ⅲ層を含み、風倒木痕の可能性がある。縄文土器を6点出土している。

SX-2 性格不明遺構 10T西側、急傾斜の南斜面で検出した。平面形は溝状で、斜面に斜めに延び、最大幅140cm、断面がV字形を呈し、深さ140cm以上で垂直に落ち込み、堆積土に基本層Ⅲ層が落ち込んでおり、人為的な遺構とは認められず、地割れ痕とみられる。

SX-6 性格不明遺構 1Tの北側平坦面で検出した。東西方向に延びるSD-6溝跡を切っている。平面形は略丸



第19図 II区平場造構・通路状造構実測図

## 1号通路遺構 A

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR4/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	わずかに炭化物を含み、直徑10mm位の凝灰岩ブロックを多く含む。
2	10YR3/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	層の下半部・斜面側に黄色の土 (10YR5/6) がかなり混入している。又1層と同様に凝灰岩ブロックを含む。併しブロックの大きさは前者のものよりも大きいものが多い。(鉛の天端面)
3	10YNS/4 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	斜面と鉛の天端面(部分的)に直徑50mm位の凝灰岩ブロックが大量にあり、又ところどころに2層の堆積の土が混入している。

## 1号通路遺構 B

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR3/2 黄褐色	シルト	なし	ややあり	10YR2/2層頂の土が部分的に露出しており、又側面に黒い鉄が多い。
2	10YR3/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	10YR3/2層頂の土が上部に混入している。下部には小さな(直徑10~20cm) 岩盤ブロックを含んでおり、即ちにあるような大きめ(50mm位)のものも含まれている。

## 3号平場遺構 A

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR2/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	1、2層とも斜面土であり、ガラスが含まれている。
2	10YR3/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	層の下部部・斜面側に黄色の土 (10YR5/6) がかなり混入している。又1層と同様に凝灰岩ブロックを含む。併しブロックの大きさは前者のものよりも大きいものが多い。(鉛の天端面)
3	10YR2/3 黄褐色	シルト	ややあり	なし	上の鉄面土の層よりも既存土が強く、褐色の土 (10YR4/4) の土が混入している。
3b	10YR4/4 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	直徑1~3mmの砂礫と少量含む。又上部に3層の黒色土が混入している。
4	10YR5/6 黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	2層の土が上部に混入している。又下部に10~20mm位の凝灰岩ブロックが含まれる。

## 3号平場遺構 B

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
3	10YR2/3 黄褐色	粘土質シルト	△	△	既存の層の細かい粘土質の層であるが、斜面側にさらに黒い (10YR2/2) 粒子が多量に混入している。スピットの取り込みがある。
3a	10YR4/4 黄褐色	シルト	△	△	砂礫がわずかに含まれる。
3b	10YR3/4 黄褐色	シルト	×	△	部分(?)の黒化したようなもの (円錐粒子) がほとんどを占める層である。

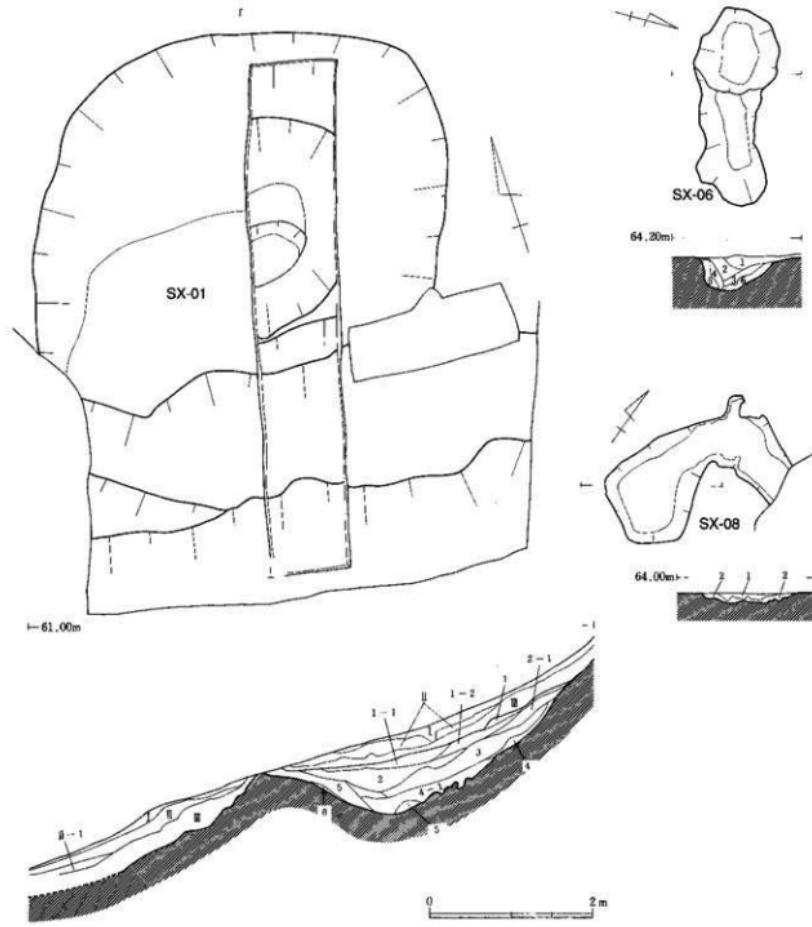
## 3号平場遺構東側 C

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR4/3 黄褐色	シルト	なし	ややあり	既存土の層で、東上面には調査時に削った段落が残っている。左の奥の中、中央付近に最大200mmの岩盤ブロックを含む。黄土。
2	10YR4/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	左の層の層には直徑10~40mmの砂礫が少量含まれているが、右側の層には、ほとんど含まれていない。
2a	10YR4/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	2a比べ、粒子が細く多く、既じり気が少ない。右の右端部(a)に黑色土の侵入が見られ、種(20mm前後)
2b	10YR4/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	中央部の土の上にわずかに侵入している。土質は2aとは同じ。岩盤状(ブロック等)のものは全く含められない。
3	10YR3/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	3層黒色土。右側Bの部分はより黒色が強い。十色 : 10YR3/2 (黒褐色)。左 : 是の層の裏りか?
3a	10YR5/4 黄褐色	シルト	なし	ややあり	既存したブロック状の岩盤のブロックを含む。
3b	10YR5/4 黄褐色	シルト	なし	あり	既存土が風化してできた細かい粒子の層で、赤茶にしまりがある。堆山の触り当り
4	10YR5/4 黄褐色	シルト	なし	あり	

長方形で、長軸方向はN-77°-Eで、長軸243cm、短軸60~95cm、深さ33~42cmを測る。堆積土2層上面に炭化物を多く含んでいる。

SX-7 性格不明遺構 1Tの西側平坦部で検出した。南辺と北西角部はSI-01掘立柱跡及びSK-12坑によって切られているが、平面形は梢円形と推定される。長軸400cm、短軸240cm以上で、上端幅45~100cm、U字形の断面形を呈し、深さ5~22cmの溝が半円形に周溝状に巡る。

SX-8 性格不明遺構 1T中央部の緩斜面で検出した。一部搅乱で欠けているが、平面形は不整な三角形を呈する。規模は長軸220cm、短軸116cm、深さ14cmで、断面形は浅い舟底形である。



層位	土 壴	土 質	上 性		特 考
			熱 徵	しまり	
1					地1-2に類似するがやや明るく、しまり始めで強い
1-1	10YR3/3	暗緑	粘土質シルト	あり	砂利及び、炭化物を含み、しまり強い(基本層質強か?)
1-2					地1-1に類似するが、しまり少しで、砂利粒を多く含む
2-1	10YR4/4	暗	粘土質シルト	あり	しまり始めで強い
2-2	10YR4/4S	暗	シルト質粘土	あり	砂利を含み、少量の炭化物を含み、しまり強く、下部は南辺部に集中する
2-3	10YR3/5/4	暗褐	粘土質シルト	あり	砂利を含み、しまり強く、少量の炭化物を含む
3-1					地に類似するが砂利を多く含み、しまり大
4	75YR3/4	暗褐	シルト質粘土	あり	炭化物及び砂利を含み、しまり強・
4-1	75YR4/4	暗	粘土質シルト	薄い	他の土質層を含み、砂利粒、ややべつづく
5	24YR3/2	黄土	砂質シルト	ややあり	ややグリ化するが、多量の砂鐵粒を含み、かなしくしまる
6	10YR4/4	暗	粘土質シルト	あり	少量の砂利粒及び八角形を含み、しまり強
7	10YR3/3	暗褐	シルト	ややあり	少量の砂利粒を含む、しまりあり
8	10YR3/4	暗褐	粘土質シルト	あり	少量の砂利粒を含む、しまりあり
9-1					まだ解釈すらが、炭化物を多く含み、やや弱い。しまりあり
9-2	10YR3/2	浅褐	粘土質シルト	あり	炭化物及び砂利の砂利層を含み、しまり強(基本層質強?) 上層部質地より黒色のブロックが少ない
9-3	10YR4/5	暗	粘土質シルト	あり	少量の砂利及び炭化物を含み、しまり強。表面にて、V字溝上のものがしまり強い

第20図 II区SX-01・06・08性格不明構造実測図

## SX-06

番号	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR4/4	茶	シルト	なし	ややあり 1~5cmの塊を少量含んでおり、又3mm以下の細かな粒状の炭化物をわずかに含む
2	10YR3/4	暗褐	シルト	ややあり	ややあり 3~20mm（最大直径40mm）程の塊が層の中より方に集中して含まれる。又3mm以下の細かな粒状の炭化物を極めて多く含んでいる。
3	10YR4/6	褐	シルト	ややあり	ややあり 3~20mm（最大直径40mm）程の塊が層の中より方に集中して含まれる。又3mm以下の細かな粒状の炭化物を極めて多く含んでいる。
4	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	ややあり 3~7mmの塊を数箇含む以外は、土質的に6.2.3とは同じ
5	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	ややあり 3~5mmの塊を少量含む10~35mm（最大直径40mm）程の岩盤ブロックを数箇含んでいる。又炭化物を極めて多く含む
6	10YR3/4	暗褐	粘土質シルト	ややあり	ややあり 粘土の強い土の塊が見られる。又砂中石上部分は5~25mm程の砂が多く含まれている

## SX-08

番号	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR4/5	褐色・黄褐色	シルト	ややあり	あり 35~50mm程度の岩盤ブロックと炭化物を少量含む
2	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	あり 5~30mm程度の岩盤ブロックを多量に含み、又炭化物を少量含む

## 2) III区

III区は、II区との比高差が30mにも及ぶ深い谷部である。谷筋は傾斜角9度程度で、谷の最奥部から下流側へ順にトレーンチ番号1~5Tを付し、重機を用いて表土排除を行い、遺構確認調査を行った。

1T 谷部の最奥部、沢を横切るように南北方向に幅1m、長さ7m、面積約7m<sup>2</sup>のトレーンチを設定した。表土から1mほどの深さで涌水が激しく、壁崩落の危険があったため、調査を中止した。出土遺物はない。

2T 1Tに平行に、東側下流8mの地点に、南北方向に幅1m、長さ8m、面積約8m<sup>2</sup>のトレーンチを設定し、沢底まで精査したが遺構は検出しなかった。表土から砾石（L-3）が出土している。

3T 2Tの東側下流8mの地点に、南北方向に幅5m、長さ9m、面積約45m<sup>2</sup>のトレーンチを設定し、沢底まで精査した。3・4TではV字状の沢底の肩部に幅0.5~1.5m程の平坦部を確認し通路の可能性があるが、これ以外の遺構は検出しておらず、不明である。沢底から須恵器壺（E-3）が出土している。

4T 沢が土採りによって広く開けた地点、3Tの東側下流12mに、南北方向に幅5m、長さ11m、面積約55m<sup>2</sup>の不整形のトレーンチを設定し、沢底まで精査したが、3Tから続く平坦面以外、遺構は検出しなかった。地表に頸在するマウンドがあったが、近年の土採りによって形成された盛り土とみられ、その下層から寛永通宝（N-5）、表土からは鉄砲玉（M-3）が出土している。

5T 4Tの東側下流15mの地点に、南北方向に幅5m、長さ1m、面積約75m<sup>2</sup>の不整形のトレーンチを設定し、沢底まで精査したが遺構は検出しなかった。表土から縄文土器、土師器、磁器碗（J-5）を出土している。

## 3) IV区

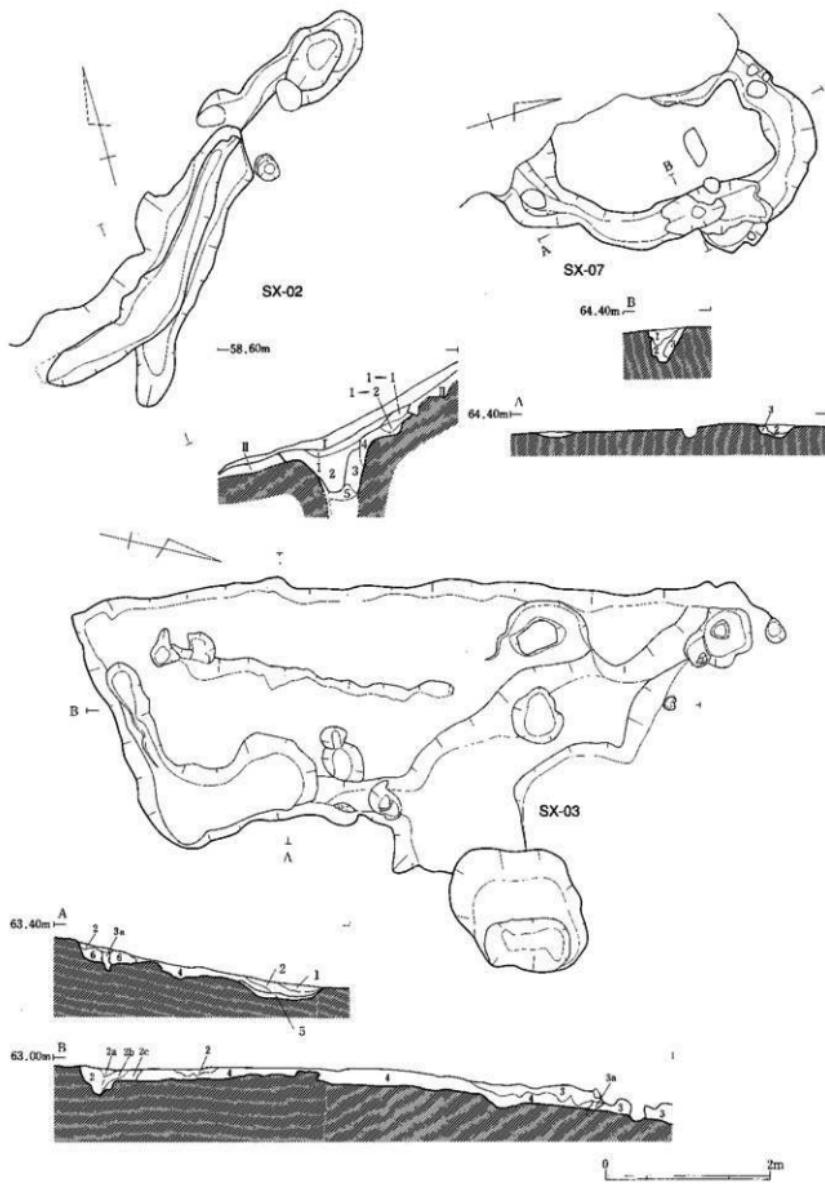
調査区IV北側の尾根の南斜面に幅14m、長さ20m、面積約260m<sup>2</sup>の調査区を設定した。十字形に地層観察用のベルトを残し、調査区を4区西、1~4Tに分け、表土（I層）、旧表土層（II層）を除去し、III層上面で遺構確認調査を行った後にベルトを撤去し、IV層上面の精査を行った。

1Tから2Tにかけて、調査区北端にあたる現況で尾根の「背」となる最高所、及び、調査区の東端は、かつての土採りで削り残された斜面の縁辺で、急傾斜の崖面となっており、幅1.2m、高さ0.2~0.4mほどの畝状の高まりが巡る。

調査区中央、3Tから4Tにかけて緩やかな斜面に沿って、南西側の林から北東方向に斜上していく、幅0.3~0.6mほどの通路状の平坦面を確認したが、近年まで利用されていた踏み跡とみられる。

III層上面の調査では、調査区全面に不作為に分布するピット135個を検出した。ピットの組合せから建物跡や柱列などの遺構となる可能性を見出すことはできなかった。

IV層上面の調査では、土坑8基、性格不明遺構3基のほか、ピット103個を検出した。



第21回 II区SX-02・03・07性格不明遭構実測回

SK-02

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR5/4	暗褐	シルト	なし	5cm大の岩盤塊を含む
2	10YR3/3	暗褐	シルト	なし	50mm大の岩塊を北東斜面に散在する
3	10YR2/2	黒褐	シルト	なし	基底30cmの巣巣層を多量に含む
4	10YR2/3	暗褐	シルト	なし	1m強度しているが特徴が無い
5	10YR2/4	暗褐	シルト	なし	1.5m強度しているが、灰褐色の軟弱な砂岩を含む
6	10YR2/2	暗褐	シルト	ややあり	硬質上部を含む、又5mmの大岩盤塊を含む
7	10YR2/3	暗褐	シルト	ややあり	硬質上部を含む、又5mmの大岩盤塊を含む
8	10YR2/4	暗褐	シルト	ややあり	10mmの大岩盤塊を含む
9	10YR4/4	褐	粘土質シルト	なし	20mm人の頭髪(基底層の割)
10	10YR4/4	褐	粘土質シルト	ややあり	2.3mよりも明るい

SK-07 A

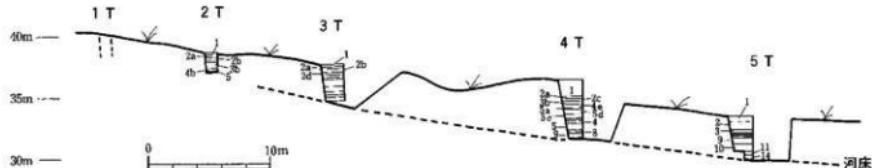
層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR4/4	暗褐	シルト	ややあり	10cm2~10mm程度の岩盤ブロックと炭化鉄を含む
2	10YR3/4	暗褐	シルト	ややあり	直徑2~10mm程度の岩盤ブロックと炭化鉄を含む
3	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	直徑2~5mm程度の岩盤ブロックと炭化鉄を含む

SK-07 B

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR2/4	暗褐	シルト	ややあり	直徑2~10mm程度の岩盤ブロックと炭化鉄を含む
2	10YR3/3	暗褐	シルト	ややあり	直徑1~40mm程度の岩盤ブロックを多量に含む直徑5cm程度の炭化鉄を含む
3	10YR3/3	暗褐	シルト	ややあり	直徑2~5mm程度の炭化鉄を含む

SK-03

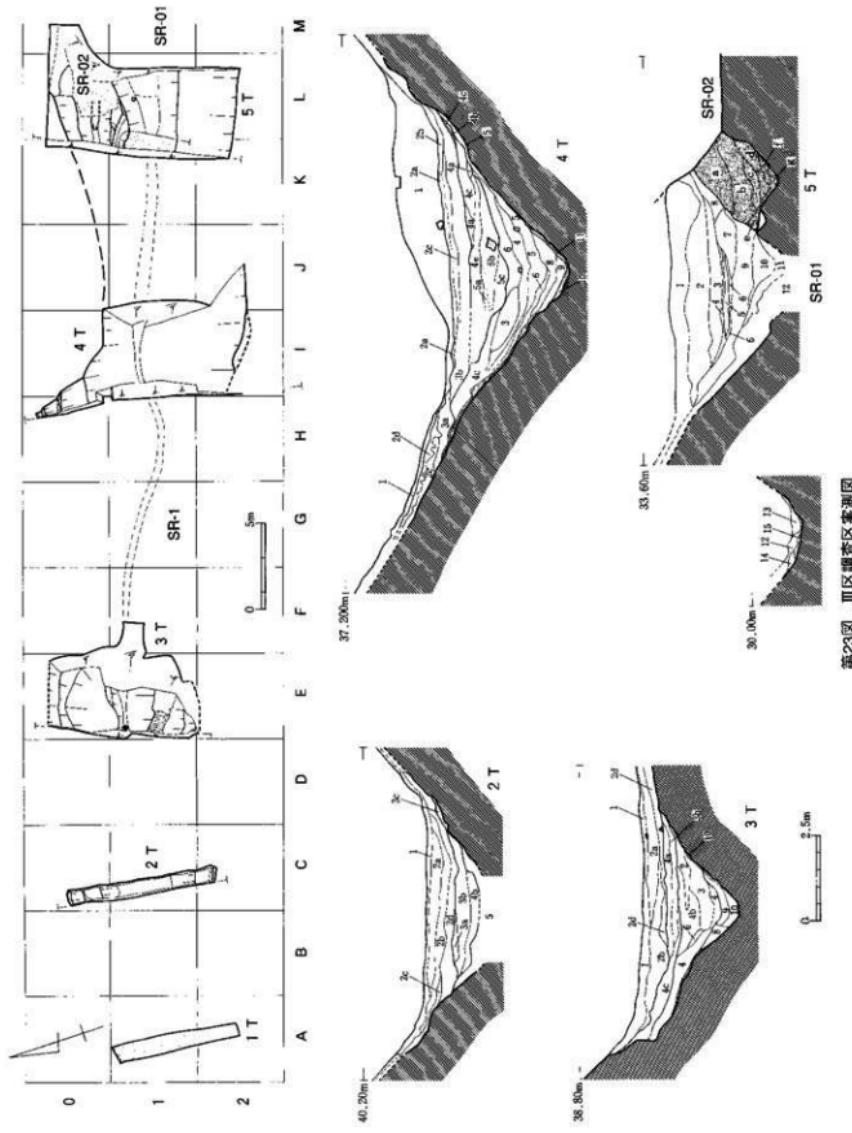
層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR3/4	黄褐色	シルト	なし	10mm以下の細粒を含む以外は、泥じりの少ない土質
2	10YR4/4	褐	シルト	なし	全部分に5mm以下の小さな砂をわずかに含み、固形部分には30mmの砂岩ブロックを3つ含む
2a	10YR3/4	黄褐色	シルト	なし	10~35mmの砂岩ブロックを数個含んでおり、炭化物を含む
2b	10YR3/6	黄褐色	シルト	ややあり	35mm程度の砂岩ブロックを3つと5~20mm程の砂をわずかに含む。上質は土に施して近いが、やや粘性がある
3	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	5mm以下の細粒を含む以外は、泥じりの少ない土質
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	ややあり	5~15mmの砂岩ブロックを含む。中質より下部には全く含まない。土質は2とは異じが、が見える
3	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きめの砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ
4	10YR3/6	黄褐色	シルト	ややあり	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きな砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ
5	10YR4/4	黄褐色	シルト	なし	5mm以下の細粒を含む以外は、泥じりの少ない土質
5	10YR3/4	黄褐色	シルト	なし	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きな砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ



第22図 III区調査区図

III区 2T

層位	土 色	土 質	土 性		備 考
			粘 性	しまり	
1	10YR3/4	暗褐	シルト	ややあり	泥炭土層、植物の根を多く含み、炭酸塩岩を含む
2a	10YR3/4	暗褐	砂質シルト	なし	1層よりも岩塊を多く含み、下部からの侵入層か。1層よりやや弱い
2b	7SYR2/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	2層よりも岩塊を多く含む。1層の岩塊を含む。土体強度豊か
3	10YR4/4	褐	シルト	なし	1層よりも岩塊を多く含む。1層の岩塊を含む。土体強度豊か
4	10YR3/4	黄褐色	砂質シルト	なし	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きめの砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きな砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ
6	10YR3/6	黄褐色	シルト	なし	5mm以下の細粒を含む以外は、泥じりの少ない土質
7	10YR4/4	褐	シルト	なし	10~20mmの砂岩ブロックを含む。大きな砂が含まれないことをのぞけば十質的にも3とは同じ
8	10YR4/4	褐	砂質シルト	ややあり	泥炭土層、植物の根を多く含み、炭酸塩岩を含む
9	10YR4/4	褐	砂質シルト	ややあり	泥炭土層、植物の根を多く含み、炭酸塩岩を含む
10	10YR4/4	黑	砂質シルト	あり	泥炭土層の砂質地を含む。水下堆積、ある時期の海水上層と考えられる
11	10YR4/4	褐	シルト	なし	泥炭土層(砂質)の入り口でシルトを含み、基本層(砂質)の減強層か、無機地
12	2SYR4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	40mよりも明らかに弱い
13	10YR3/4	暗褐	砂	弱い	肉眼的の岩塊地を大量に含む。1層からの流入層か。
14	7SYR3/3	オリーブ褐色	砂質シルト	あり	グリナ化した岩塊から得た層の表面層の干渉現象
15	10YR4/4	褐	砂質シルト	ややあり	2b層よりも大きな岩塊を含む(100mm直径)。壁からの落葉土もしくは堆積物



第23図 III区調査区実測図

3T

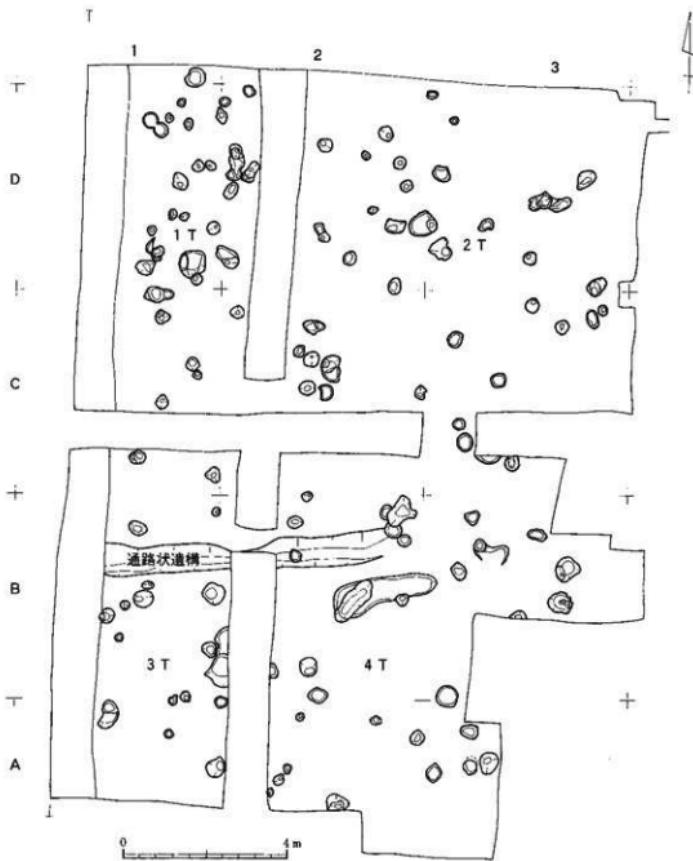
層位	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	25Y3/3	褐色	シルト	ややあり	直徑5~10mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層
2	25Y3/3	褐色オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり	ブロックを複数に含む均質な層
3	5Y2/2	オリーブ褐	粘土質シルト	ややあり	北側に墓壙につれて、10Y3/3の色が出てくる
4	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	直徑20~50mmの岩盤ブロックを多量に含む。崩落土と思われる
5	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	ややあり	直徑20~50mmの岩盤ブロックを多量に含む
6	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	直徑20~50mmの岩盤ブロックを多量に含む層
7	10YR5/6	褐色	粘土	あり	砂層に似ているが、それと比べてブロックを多く含む層
8	5Y3/1	オリーブ褐	粘土質シルト	ややあり	直徑10~50mmの岩盤ブロックを多量に含む層
9	5Y2/2	オリーブ褐	シルト	なし	ブロックを含まない均質な層
10	5Y3/1	オリーブ褐	シルト	なし	ブロックが入らない均質な層であるが上層に比べて下層の方がダイナミックで、ねずみ色が強い

4T

層位	土色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	25Y3/2	褐色	粘質シルト	ややあり	坑の開口部を埋めさせる砂質土。但し4T南側までこの層は分布しない。25Y5/6黄褐色と岩盤ブロック(直徑10~30cm)を量的に含み、4T付近ではワンド状に盛りされている
2a	75YR3/4	褐色	シルト	ややあり	1m以上の崩壊物がややグラウル化し、均質に10cm程度の厚さではほぼ水平に堆積している
2b	75YR3/4	褐色	シルト	ややあり	均質なシルト層でブロック含む
2c	75YR3/3	褐色	シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2d	75YR4/4	褐色	シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2e	75YR4/4	褐色	シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2f	75YR4/4	褐色	シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2g	75YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2h	75YR4/4	褐色	砂	なし	ねじりとも同じく、直徑(3~10mm)を含む
2i	75YR4/4	褐色	砂	なし	ねじりとも同じく、直徑(3~10mm)を含む
2j	75YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	2cm以上-30cm以下の粒子(小石子)を多く含む
2k	75YR4/4	褐色	砂	なし	2~5cmの砂の層を含む
2l	75YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	2~5cmの砂の層を含む
2m	75YR4/4	褐色	砂	なし	2~5cmの砂の層を含む
2n	10YR5/4	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5mm前後の小石子を含む。崩落土。
2o	75YR4/3	褐色	砂質シルト	なし	直徑5mm前後の小石子を含む。崩落土。
2p	75YR3/3	褐色	シルト	ややあり	直徑50~300mmの岩盤ブロックと細かい吉祥寺大の石粉粒子を多く含む
2q	10YR5/3	褐色	シルト	なし	直徑50~100mmの岩盤ブロックを人目に含み、崩落よりも均質な層
2r	10YR5/3	褐色	砂質シルト	なし	5cmとならず、ブロックをほとんど含まない。四郎山のみブロック混入
2s	10YR5/3	褐色	砂質シルト	ややあり	均質なシルト層でブロックを含みます。
2t	75YR4/3	褐色	シルト	ややあり	直徑5mm前後の小石子を含む。上端からの流入か。または人為的な操作の加ったものか、地層に比して極めて弱る
2u	75YR4/3	褐色	砂質シルト	ややあり	1m以上ある。100mmのブロックをわずかに含む
2v	10YR2/3	黒色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む
2w	10YR2/3	黒色	砂質シルト	ややあり	2cmよりも細かい層
2x	10YR2/3	黒色	砂質シルト	ややあり	2cmよりも細かい層
2y	10YR2/3	黒色	砂質シルト	ややあり	ブロックをほとんど含まない均質な層
2z	10YR2/3	黒色	砂質シルト	ややあり	ブロックをほとんど含まない均質な層
2aa	10YR2/3	黒色	砂質シルト	あり	ブロックをほとんど含まない均質な層
2bb	10YR2/3	黒色	砂	あり	ブロックをほとんど含まない均質な層

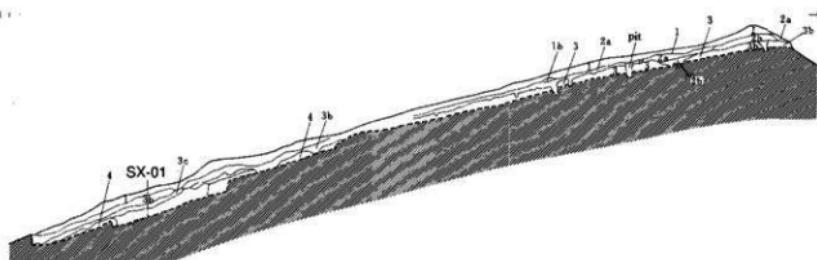
5T

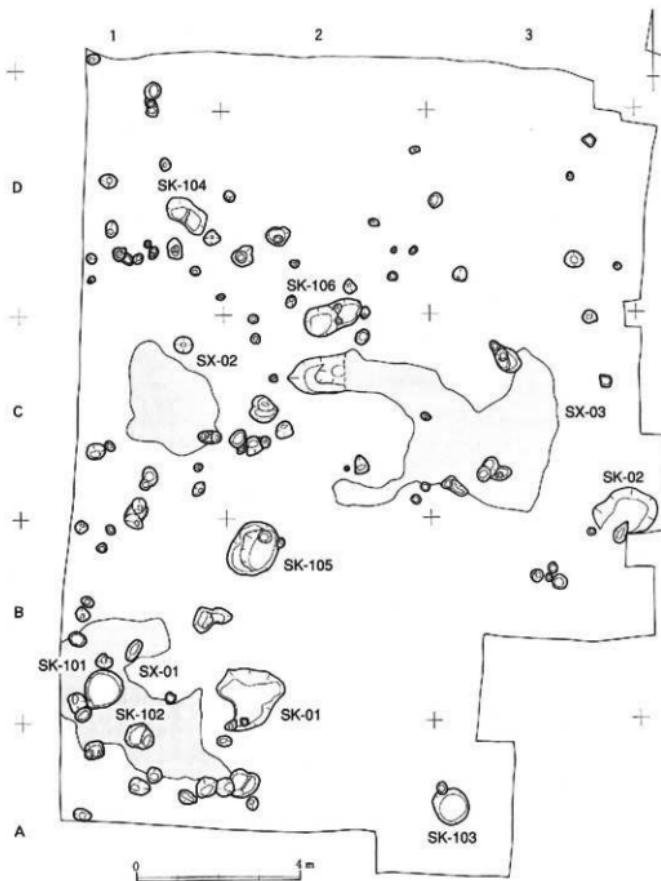
層位	上色	土質	土性		備考
			粘性	しまり	
1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑10~100mm程度の岩盤ブロックを少量不規則に含む層。最近の上工事による十数りと考えられる
2	10YR2/4	褐色	シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含み、上の層に比してかなり均質な層
3	10YR3/3	褐色	シルト	ややあり	2cmよりも細かい層でブロックをわずかに含むだけの均質な層である
4	10YR2/3	褐色	粘土	あり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
5	10YR2/2	褐色	砂質シルト	ややあり	2cmよりも細かい層でブロックを含む層である
6	10YR2/2	黒色	粘土	あり	2cmよりも細かい層でブロックを含む層である
7	10YR2/2	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
8	10YR2/4	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
9	10YR2/4	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
10	10YR2/3	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
11	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
12	10YR5/4	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを含む層である
13	10YR5/4	褐色	粘土	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを少量含む層
14	10YR5/6	黃褐色	砂質シルト	ややあり	ブロックを含まない均質な層。崩落土と変わらぬ
15	10YR4/6	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑5~20mm程度の岩盤ブロックを少量含む層。崩落土にしまりがある。崩落土と思われる
a	10YR5/4	褐色	砂土質シルト	ややあり	gと同様のものである
b	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される
c	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される
d	10YR4/3	褐色	砂質シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される
e	10YR4/3	褐色	砂土質シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される
f	10YR4/3	褐色	砂土質シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される
g	10YR5/4	褐色	砂土質シルト	ややあり	直徑2~70mm程度の岩盤ブロックを多量に含む層。a, b, c, d, e層とも人為的層と想される



第24図 IV区調査区実測図（Ⅲ層上面）

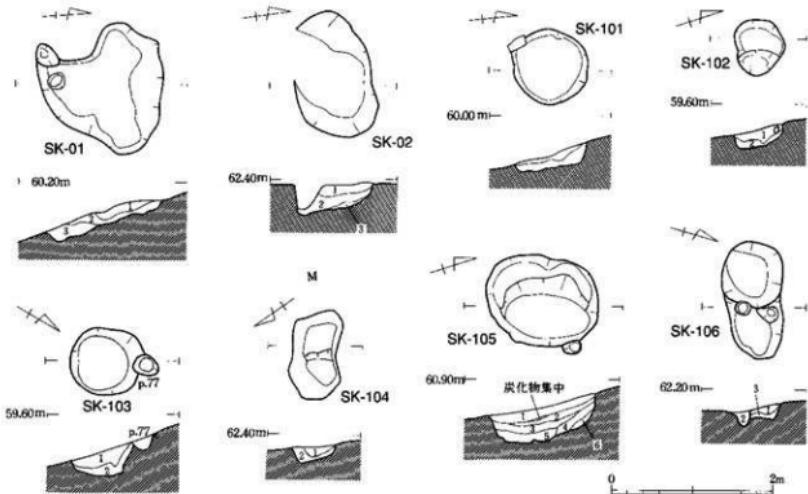
63.40m





第25図 IV区調査区実測図 (IV層上面)

層位	土色	土質	土性		参考
			粘性	しまり	
1	10YR4/4 褐色	シルト	ややあり	なし	灰土
2b	10YR2/3 暗褐色	シルト	ややあり	あり	土石礫堆土(底土)
2a	10YR2/2 黒褐色	シルト	ややあり	なし	旧茅十らしくは、その前面述べられ上。土跡、織文土器の発見
3a	10YR4/4 褐色	シルト	なし	あり	
2b	10YR2/3 暗褐色	シルト	なし	あり	馬木層(第1段階前) 石積ブロック(30~10cm大)を含む。灰又土器、包衣器
4	10YR5/3 褐色	シルト	なし	あり	品々層(第2段階前) 3.5層より明らかに岩盤との接係層ブロック大
SX-01	10YR5/2 黒褐色	シルト	なし	あり	30~100cm大のブロック层



第26図 IV区土抗実測図

SK-01

層位	上色	土質	土性	備考
1	10YR2/3 黄褐色	シルト	粘性 しまり なし ややあり	1層丹波1/3C、10YR2/2風化物入っている。炭化物を幾つかに含む。
2	75W8/4 均褐色	シルト	ややあり ややあり	炭化物を僅わずかに含む。中央下部に直径10~20mmの砂岩ブロックを含む。
3	75YR2/2 均褐色	シルト	ややあり ややあり	全部分に均質な層であるが、中央下部に直径10~20mmの砂岩ブロックを含む。

SK-02

層位	上色	上質	土性	備考
1	10YR3/4 細褐	シルト	粘性 しまり ややあり ややあり	木の根が多い。炭化物を僅わずかに含む。
2	10YR4/4 褐	シルト	ややあり ややあり	北半分の部分に直径5~10mmの木の根を含む。
3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	ややあり ややあり	炭化物を僅わずかに含む。直徑30~40mmの風化した木の根を含む。

SK-101

層位	上色	土質	土性	備考
1	10YR3/4 細褐	シルト	粘性 しまり ややあり ややあり	全部分に直徑10~20mmの風化した木の根を含む。
2	10YR4/4 褐	シルト	ややあり ややあり	炭化物を僅わずかに含む。直徑30~40mmの風化した木の根を含む。

SK-102

層位	上色	土質	土性	備考
1	10YR3/4 細褐	シルト	粘性 しまり ややあり ややあり	全部分に直徑10~30mmの風化した木の根を含む。
2	10YR4/4 褐	シルト	ややあり ややあり	炭化物を僅わずかに含む。直徑30~40mmの風化した木の根を含む。

SK-103

層位	上色	上質	土性	備考
1	10YR3/4 細褐	シルト	粘性 しまり ややあり あり	炭化物の粒を多く含む。風化した細かな礫を全体的に含む。
2	10YR5/6 黄褐色	シルト	ややあり あり	中央部分に風化した細かな礫をわずかに含む。10YR3/4がブロック状に嵌入している。

SK-104

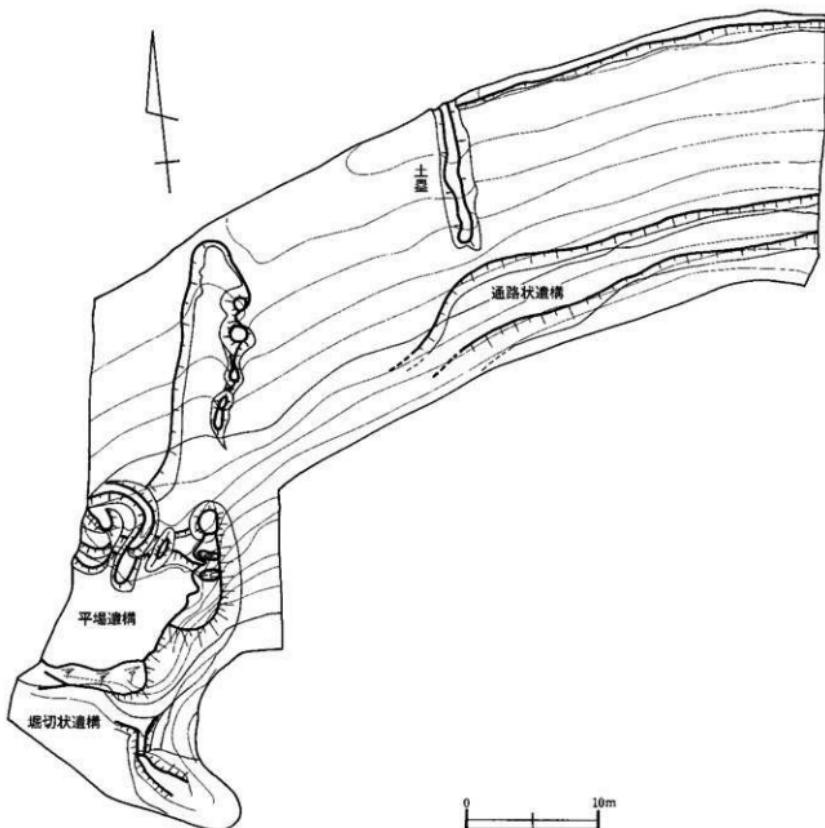
層位	上色	土質	土性	備考
1	10YR3/4 細褐	シルト	粘性 しまり ややあり ややあり	根が多い。風化した木の根が全体的に含まれる。
2	10YR4/4 褐	シルト	ややあり あり	北壁に直徑10~20mmの風化した木の根を含む。直徑40mm程度の木の根のブロックを含む。

SK-105

層位	土色	上質	土性		備考
			筋性	しまり	
1	10YR3/4	暗褐色	シルト	なし	下層面に鉄化物の集中が見られる。風化した礫の繊かな粒が含まれる
2	10YR4/4	褐	シルト	ややあり	鉄化物が極わずかに含まれる。風化した礫の粒が含まれる
3	75YR4/3	褐	シルト	ややあり	鉄化物が極わずかに含まれる。層の上部に藍灰色10mmの層が含まれる
4	10YR4/6	褐	シルト	ややあり	鉄化物が極わずかに含まれる
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	鉄化物が極わずかに含まれる。下層部に灰青50mm程度の層を含む
6	10YH5/6	青褐色	シルト	ややあり	鉄化物を極わずかに含む

SK-106

層位	土色	上質	土性		備考
			筋性	しまり	
1	10YR4/6	褐色	シルト	ややあり	ややあり 鉄化物を極わずかに含む 「鉄石ブロック」を含む。
2	10YR5/8	黄褐色	シルト	ややあり	鉄質な層。風化した礫かな粒の粒を含む
3	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし 土壤内のピット。10YR4/6が少量投入している。鉄化物を極わずかに含む



第27図 V区現況略測図

8基の土坑は、緩やかな斜面に不規則に分布し、平面形が円形、梢円形もしくは不整形を呈し、深さは10~60cm、一部の遺構は堆積土に炭化物を含む。SK-103から縄文土器を出土している。3基の性格不明遺構は、いずれも平面形が不整形で、しまりのない黒色土を堆積土にもち、人為的な掘り込みとは認めがたい。

#### 4) VI区

IV区の西側の雜木林は、今回の工事対象外の区域であるが、自然地形とは異なり、中世城郭である篠森城を構成する人工的な遺構である可能性が高い地形が観察されたため、現況で地表顕在の地形について、城館に関する遺構の可能性を検討した。

III区とした谷地形の源流部は急激にIV区側へ屈曲し、幅5m程の「堀切」状の崖みに変化し、II区とIV区の尾根の連結が遮断されている。この「堀切状遺構」は、落差が4mほどに垂直近く切り立ち、屈曲部分は人工的にL字形をなしている。その上部には平場を有し、周辺には土壠状の高まりや通路状の平坦部分もあって、「虎口」や「切通し」といった性格を有する遺構の可能性が認められる。

#### 5) VII区

II区の東側、尾根の東端部には、3段の段状をなす平場が認められた。1段目の平場はII区の平坦な尾根に連続しており、2段目の平場はII区の3号平場状遺構に延び、途中で1段下の通路状遺構と連結するものと推定される。2段目と3段目の平場の間に岩盤を切出して積上げた「石積み」の可能性がある箇所が認められた。尾根の先端東側と北側は土採りで削平されている。

## 2. 出土遺物

出土した遺物には、縄文土器、土師器、上師質土器、須恵器、瓦質土器、瓦、土製品、磁器、石器、石製品、金属製品、古錢などがある。

【縄文土器】 縄文土器156点を出土した。

II区から145点、III区から1点、IV区から10点出土しており、24点を図示した。

A-33・34・39・40・43深鉢は、「縄文条痕土器」で胎土に纖維を含んでいる。A-34は頸部の破片で、斜行沈線により幾何学的文様を描出していると推定され、太白区北前遺跡などに類例がある。早期末の上器である。

A-9・13・24・26・32・41・42は、中期から後期にかけての上器で、粗製の深鉢が多く認められる。A-24は大木10式、A-32は大木8a式である。A-26深鉢は内面に格子状沈線があり、後期前半とみられ、太白区下ノ内浦遺跡や山口遺跡などに類例がある。A-13深鉢は肥厚した口縁部上端に櫛齒状文が施され、口縁部上半に沈線で区画された幅広い無文帶があることから、後期中葉頃、宝ヶ峰式とみられる。A-41とA-42は同一個体となる可能性がある。

出土した縄文土器の中でも遺存状態が良いA-2深鉢とA-3深鉢や、A-21浅鉢は、波状口縁や平行沈線などが認められ、晩期後葉の土器とみられる。

【弥生土器】 弥生土器2点をII区の表土・耕作土から出土した。

B-1とB-2の2点とも壺または盃の破片で、肥厚する口縁部に交互刺突文などが認められることから、弥生後期、天王山式である。

【土師器】 土師器31点を出土した。

II区から20点、III区から1点、IV区から10点出土している。

【土師質土器】 土師質土器41点を出土した。

II区から29点、III区から1点、IV区から14点出土している。

【須恵器】 須恵器3点を出土した。

E-01壺は、II区1TⅢ層から出土し、体部の一部に自然釉がみられる。E-03壺は、III区3T河川から出土し

たクロ調整、底部回転糸切りで、口径10.6cm、器高3.4cm、底径4.6cmほどの残存1/8の破片である。他にⅡ区4T表土から壺の体部破片を1点出土している。

【瓦質土器】 瓦質土器1点を出土した。

F-01は、Ⅱ区1Tで表探した瓦質土器で鉢の破片とみられる。

【瓦】 平瓦2点を出土した。

G-02は、Ⅳ区1Tで表探した平瓦または棟瓦の破片で、焼成は良好である。Ⅱ区1T表土からは平瓦もしくは棟瓦の破片G-01を出土している。

【土製品】 土玉1点を出土した。

H-01土玉は、Ⅱ区から表探で出土し、直径14mm、重さ27g、面取りされた球形の粘土玉で、鉄砲玉の可能性がある。

【陶器】 陶器2点を出土した。

Ⅱ区1T表土から壺、Ⅱ区7T表土から盃の破片を出土している。

【磁器】 磁器4点を出土した。

J-01碗は、Ⅱ区5Tと6Tから出土し、口縁部が外反気味に立ち上がる碗で、外面に牡丹文、見込に寿字文が描かれ、口径12.6cm、器高7.2cm、高台径4.4cmを測る。平清水焼とみられる。他にⅡ区1Tから白磁皿2点、Ⅲ区5Tから碗を1点出土している。

【石器】 石器9点を出土した。

Ⅱ区から8点、Ⅳ区から1点出土している。二次加工のある剥片や剥片6点を図示した。

【石製品】 石製品4点を出土した。

L-01砥石は、Ⅱ区3TⅠ層から出土し、長さ88mm、幅28mm、厚さ21mm、重さ122.1gを測り、3面に使用痕が認められ、粘板岩製である。

L-02砥石は、Ⅱ区3T3号平場遺構から出土し、粘板岩製である。

L-03砥石は、Ⅲ区2T北斜面のⅠ層から出土し、長さ134mm、幅45mm、厚さ21mm、重さ333.8gを測り、上下2面に使用痕が認められ、砂岩製である。

他にⅡ区6T表土から砥石を1点出土している。

【金属製品】 金属製品3点を登録した。

M-01笄は、Ⅱ区6T土壌状遺構の構築土から出土し、青銅製で、全長21.0cm、最大幅14mm、厚さ3mmを測る。幅4mm、長さ1.4cmの耳接部の肩部から胴部にかけて渦巻文と直線文の彫文があったが、X線撮影等では金などの象徴は確認できなかった。

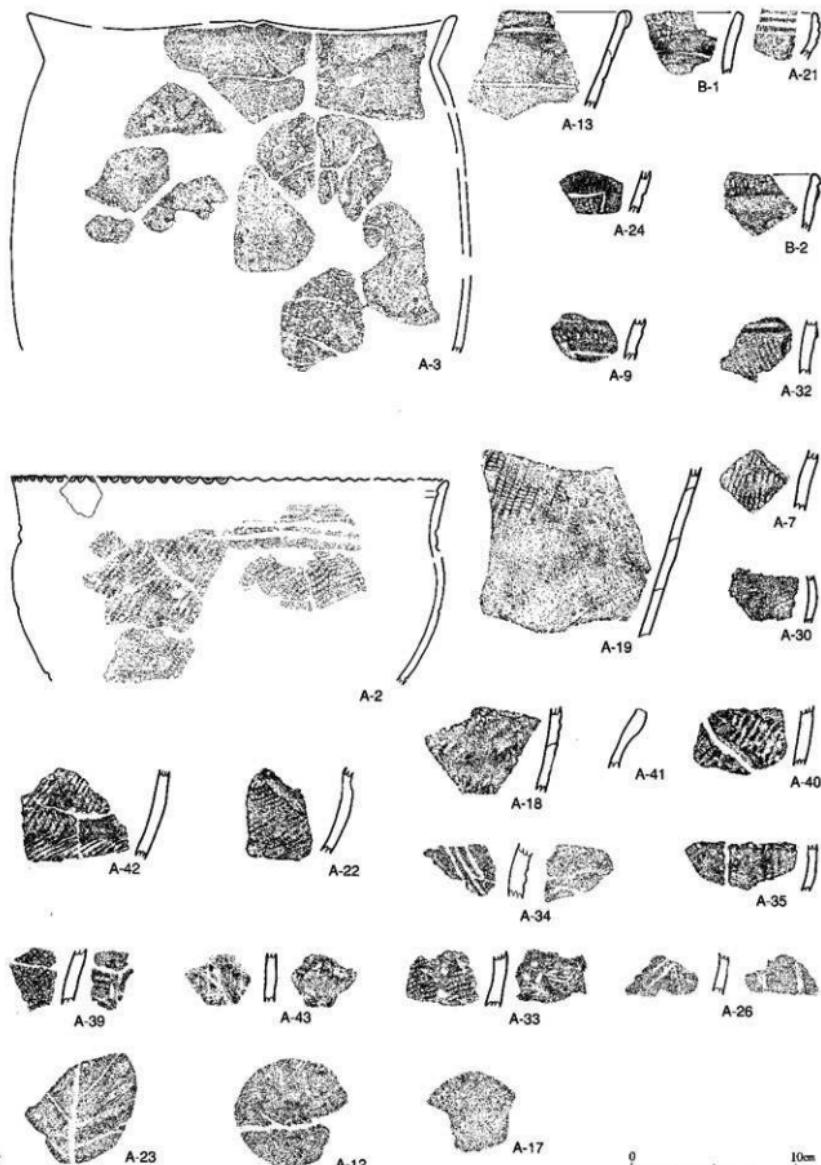
M-02鉄製品は、Ⅱ区6Tの北斜面表土層から出土した断面形が長方形で板状を呈し。頭部が打撃によると思われる変形を生じ、先端部は薄く面取りされ、湾曲する。最大幅12mm、長さ68mm、厚さ8mm、重さ27.5gを測り、クサビの可能性がある。

M-03鉄砲玉は、Ⅱ区4T表土から出土し、直径が11.50~13.91mm(平均12.50mm)、重量が11.2g、表面が白色化し、全周を幅4~5mm幅で帯状の擦痕が通り、亞んだ球形を呈す金属製品は、電子比重計での測定の結果、鉛の比重11.3に近い比重10.8の値を示した。また、砲弾とすれば、三匁玉ないしは三匁五分玉の直径にあたる12.28~12.93cm、鉛1匁を3.758gとした場合の三匁玉ないしは三匁五分玉の重量11.27~13.15gに近似することから、経年変化で表面に鉛が生じた鉛製の火縄銃弾とみられ、並みは着弾によって生じた可能性が考えられる。

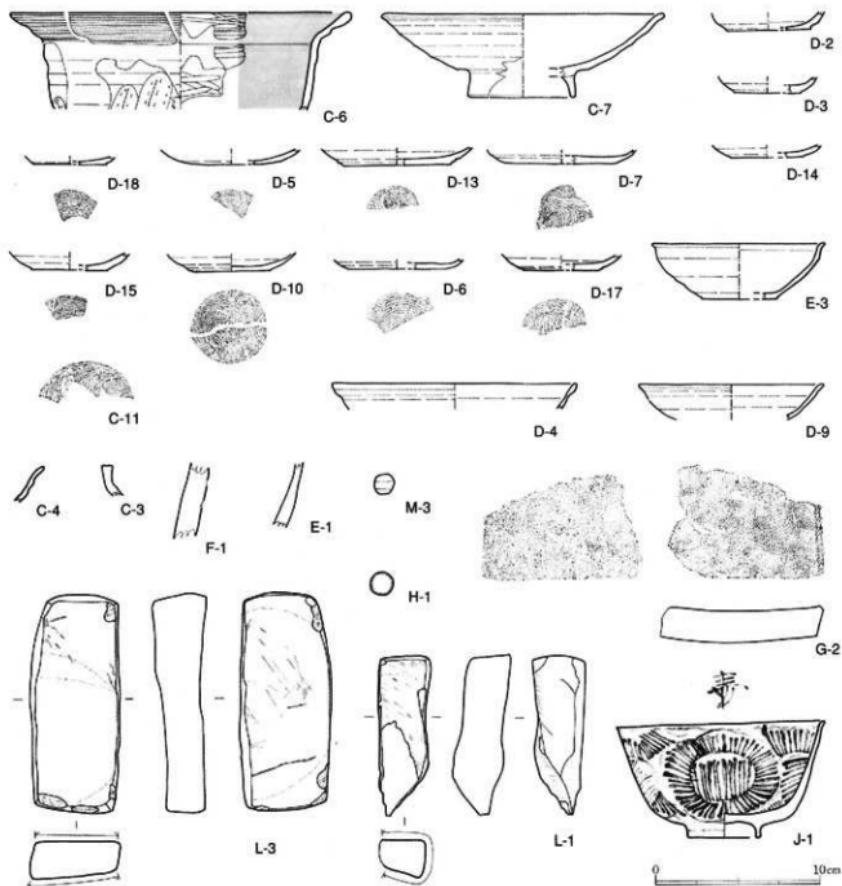
M-01笄とM-03鉄砲玉の成分分析については、鎌石文化財保存処理センターの報告による。

【古錢】 古銭5点を出土した。

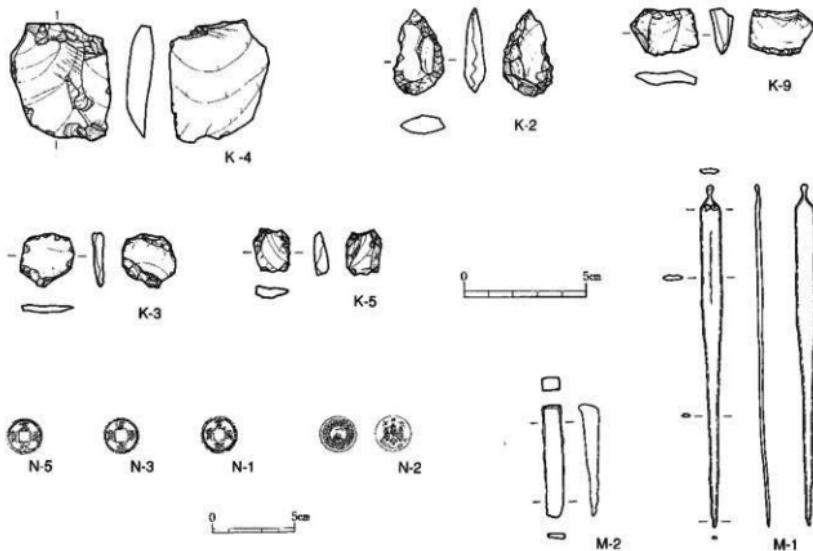
Ⅱ区1Tから寛永通宝3点と大正12年(1923)の桐一銭銅貨1点を、Ⅲ区から寛永通宝1点を出土している。



第28図 出土遺物 実測図1



第29図 出土遺物 實測図2



第30図 出土遺物 実測図 3

## 出土遺物観察表

## 第28回

登録番号	種別	器種	出土地区・遺物・層位			文様・書文		備考	回数 番号	
			区	トレンチ	遺構	層位	外 国	内 国		
A-2	純文土器	鉢	B	II	-	表層	小字文(1)、直平行花瓶文、体部に縦短斜線文(2例)、L形文、直筒文	口徑27.6cm、高さ(2.6cm)	13-2	
A-3	純文土器	鉢	B	II	3T	I層	波状口縁、L形文	口徑27cm、高さ(2.6cm)	13-1	
A-13	陶器	鉢	B	3T	-	I層	刻印した山形文、縫合部斜文、口縁上子口平行波状口縁で形成、4枚	ミガキ	13-3	
H-1	陶器	鉢	B	II	1T	II層	やや肥厚した口縁部上向外に前突文、3枚	ミガキ	13-4	
A-21	赤土土器	鉢	B	II	5T	試掘	I-1層	「△峰部の縁上1段、平行花瓶3点、ミガキ	ミガキ	13-5
A-24	泥質土器	鉢	B	II	1T	南斜面	I層	L形文(2例)、横斜文(1例)、網目文(1例)(ミガキ調査)	ミガキ	13-6
H-5	變形土器	鉢	B	II	1T	-	II層	堅厚した口縁部に先花割れ、縫合部斜文	ミガキ	13-7
A-9	陶器	鉢	B	II	6T	-	I層	北端、鋸刃、縫合	ミガキ	13-12
A-32	陶器	鉢	B	II	7T	-	I層	横斜文、L形文	ミガキ	13-13
A-19	陶器	鉢	B	II	3T	-	II層	L形文	ミガキ	13-8
A-7	陶器	鉢	B	II	3T	-	I層	L形文	ミガキ	13-9
A-30	土器	鉢	B	II	9T	SX-01	8層	L形文、砂郡R文	ミガキ	13-16
A-12	陶器	鉢	B	II	6T	-	I層	L形文	ミガキ	13-15
A-22	陶器	鉢	B	II	1T	2段平壠	I層	L形文	ミガキ	13-17
A-18	陶器	鉢	B	II	2T	-	I層	L形文	ミガキ	13-10
A-41	陶器	鉢	B	II	6T	-	I層	ミガキ	ミダ	13-11
A-40	陶器	鉢	B	II	7T	-	I層	横斜文、L形文	毛被文	13-14
A-24	陶器	鉢	B	II	10T	-	I層	L形文	尖頭文	13-19
A-35	陶器	鉢	B	II	1T	-	II層	横文(製作不規)	ミガキ	13-18
A-39	陶器	鉢	B	II	ZLグリット	4層	LM文	名貞文	織田夫人	13-20
A-43	陶器	鉢	B	II	7T	表鉢	II層	横斜文	織田夫人	13-21
A-33	陶器	鉢	B	II	1T	-	II層	LM文	織田夫人	13-22
A-20	陶器	鉢	B	II	1T	-	I層	横斜文、山字文、無文文	吉子紋沈	13-23
A-23	皿	皿	B	II	5T	SK-101	底面	底面	一	一
A-12	陶器	鉢	B	II	6T	-	I層	底面	底面	一
A-47	陶器	鉢	B	II	6T	-	I層	底面	底面	一

## 第29回

登録番号	種別	器種	山土地区・遺物・層位			西国調査		備考	回数 番号	
			区	トレンチ	遺構	層位	外 国	内 国		
C-6	土師器	盆	B	IV	4T	I層	白輪底コナテ、体部にクニナテ後ヘタケズリ ヘラミガキ、黑色地刷	口径20.8cm	14-1	
C-7	土師器	両耳付盆	B	IV	4T	I層	クロロ、横斜文	口径(17.2cm)、高さ(3.6cm)、底面(6cm)	14-2	
U-2	陶器	II	III	3T	-	I層	クロロ、圓輪底刷	クロ	14-12	
D-3	陶器	II	III	5T	-	I層	クロロ、圓輪底刷	クロ	-	
D-18	陶器	II	IV	1T	-	II層	クロロ、圓輪底刷	クロ	-	
D-5	陶器	II	III	2T	-	I層	クロロ、圓輪底刷	クロロ後ヘタケズリ	14-6	
D-13	陶器	II	III	3T	-	I層	クロロ、圓輪底刷	クロロ	14-9	
D-7	土師質骨董	II	III	5T	-	I層	クロロ、ヘタケズリ、藍色地刷	クロ	14-4	
D-14	陶器	II	III	5T	土盛	ミナフ七輪、リッパ、圓輪底刷	クロ	-	-	
D-15	陶器	II	III	5T	千四	横斜文	クロロ後ヘタケズリ	クロ	14-3	
D-10	陶器	II	III	5T	千四	横斜文	クロロ	クロ	14-8	
D-6	陶器	II	III	5T	千四	横斜文	クロロ後ヘタケズリ	クロ	14-5	
D-17	土師質骨董	II	III	2T	II層	クロロ、圓輪底刷	クロロ	クロ	14-7	
K-3	須恵器	杯	B	II	JT	SR-01	底面	クロロ、ヨコナテ、圓輪底刷	クロ	14-12
C-11	土師器	盆	B	IV	4T	I層	ヨコナテ	ヨコナテ	14-13	
D-4	土師質骨董	盆	B	II	3T	I層	ヨコナテ	ヨコナテ	14-15	
D-9	土師器	盆	B	II	5T	I層	ヨコナテ、ヘタケズリ、藍色地刷	黒色地刷	附形を呈す	14-16
C-4	土師器	盆	B	II	1T	I層	ヨコロ、直筒	ヨコナテ	14-18	
U-3	土師器	直	B	II	1T	I層	ヨコロナテ後ヘタケズリ	ヨコナテ	14-19	
H-1	灰質土器	II	III	1T	-	II層	ヨコロ、圓輪底刷	ヨコナテ	14-21	
E-1	須恵器	盃	B	II	1T	正直面	ヨコロ、自然釉	赤みあり	14-22	
M-3	金銀葉器	鍍金盃	B	II	4T	II層	ヨコロ、自然釉	赤みあり	14-23	
II-1	十相品	十二	B	II	1T	女形	照転写し	桃尻	14-24	
G-2	瓦	瓦	B	II	1T	I層	瓦転写	瓦転写	14-25	
L-3	石製品	砾石	B	II	2T	I層	1層	1層	14-26	
L-1	石製品	砾石	B	II	3T	I層	1層	1層	14-27	
J-1	磁器	碗(内)	B	II	5-6T	表丹	見品に書字	D径12.8cm、基A7.2cm、高さ4.6cm、平底水差	14-28	
D-12	十相品	瓦	B	II	5T	表丹	クロロ、圓輪底刷	クロ	14-11	
C-10	土師器	盆	B	II	3T	II層	ヨコナテ	ヨコナテ	14-16	

## 第30回

登録番号	種別	器種	出土地区・遺物・層位			法 象			回数 番号	
			区	トレンチ	遺構	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	
K-4	石器	片	B	II	7T	I層	46	41	14	24.2
K-2	石器	片	B	II	5T	II層	34	16	8	53
K-9	石器	片	B	II	1T	II層	47	26	4	32
K-3	石器	片	B	II	5T	II層	22	22	5	20
K-5	石器	片	B	II	1T	II層	36	14	4	17
N-6	石器	片	B	-	-	表土	-	-	-	15-7
N-3	石器	水道	B	II	1T	表丹	直筒22.孔径5	1	-	15-8
N-1	古鏡	鏡	B	II	1T	II層	直筒22.孔径6	1	-	15-9
N-2	古鏡	鏡	R	II	1T	I層	22	1	-	大正12年 (1923)
M-2	金銀葉器	片	B	II	6T	I層	68	12	8	27.5
M-1	金銀葉器	片	B	II	6T	表丹	210	12-0.4	0.3-0.1	29.5
K-1	石器	片	B	II	1T	II層	22	26	7	5.1



### III 自然科学分析

#### 仙台市笛森城跡出土炭化材の樹種同定

株式会社 古環境研究所

#### 1. 試料

試料は、笛森城跡より出土した炭化材15点である。表1に一覧する。

表1 笛森城跡出土炭化材一覧

番号	遺構	細部	
No.1	SB-01	掘立柱建物跡	S 1・E 2 柱痕跡
No.2	SB-01		S 1・E 3
No.3	SB-01		S 3・E 2
No.4	SB-01		S 3・E 3
No.5	SK-01	土杭	
No.6	SA-08	柱列	S 1 柱痕跡
No.7	SK-11	土杭	
No.8	SK-09	土杭	
No.9	2号焼土遺構		
No.10	1号焼土遺構		
No.11	SK-03	土杭	
No.12	SA-08	柱列	S 1 柱痕跡
No.13	SB-02		S 2・E 2
No.14	SB-02		S 2・E 3
No.15	SB-02		S 1・E 3

#### 2. 方法

炭化材を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 3. 結果

15点の炭化材から以下に挙げた4の樹種が同定された。なお、試料No.7についてはいずれの断面の観察においても木本の形質は認められなかった。

さて、炭化材においては、炭化の際に収縮膨張していたり、黒色の炭化物となることから表面構造の一部しか観察ができない。さらに横断、接線、放射の各面についての良好な破断面の作成が非常にむずかしい。したがって、同定の精度は生材に比べ遙かに劣ることは否めないため、このことに留意する必要がある。

結果を表2に示し、巻末に各分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定の根拠を記す。

表2 笹森城跡出土炭化材樹種同定結果

試料	樹種	(和名／学名)
No 1	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 2	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 3	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 4	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 5	ハシバミ属	<i>Corylus</i>
No 6	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 7	不明	unknown
No 8	フジ	<i>Wisteria floribunda</i> DC.
No 9	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 10	クリ?	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.?
No 11	クリ?	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.?
No 12	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 13	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
No 14	サクラ属	<i>Prunus</i>
No 15	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.

a. ハシバミ属 *Corylus* カバノキ科 図版1

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～3個複合して、放射方向につらなる傾向をみせて散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は6～10本である。放射組織は糸状である。

接線断面：放射組織は単列の異性放射組織型である。  
以上の形質によりハシバミ属に同定される。ハシバミ属にはハシバミ、ツノハシバミなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の低木である。なおハシバミは、高さ5m、径10cmぐらいで、器具などに用いられる。

b. クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2・3・4

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、數列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。

早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質によりクリに同定される。なおNo10とNo11は、クリの特徴を示すものの試料が小片であるため、広範囲な観察ができなかったので、クリ?とした。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で建築など広く用いられる。

c. サクラ属 *Prunus* バラ科 図版5

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは数個複合して均等に分布する散孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は同性に近い異性放射組織型で、1～3細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりサクラ属に同定される。サクラ属にはシウリザクラ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ、モモ、ウメなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または小高木である。

#### d. フジ *Wisteria floribunda* DC. マメ科 図版 6

横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では中型の道管のほかにごく小型の道管が多数集合して木部柔組織とともに接線方向の帶状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は同性に近い異性放射組織で、1～8細胞幅である。

以上の形質よりフジに同定される。フジは本州、四国、九州に分布する。つる性の落葉木本である。

#### e. 不明 Unknown

横断面、放射断面、接線断面共に木本の形質をもたない。

### 4. 所見

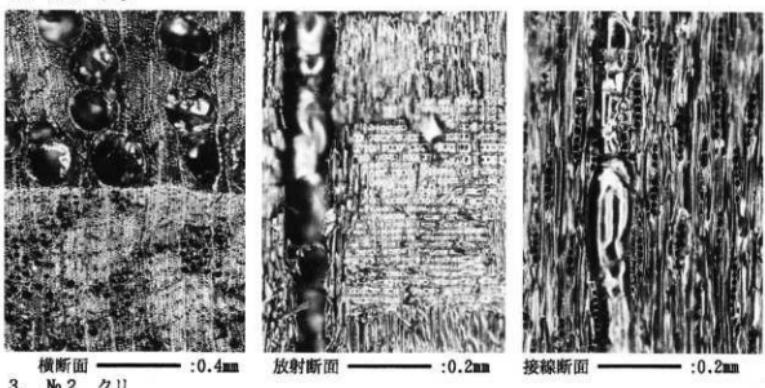
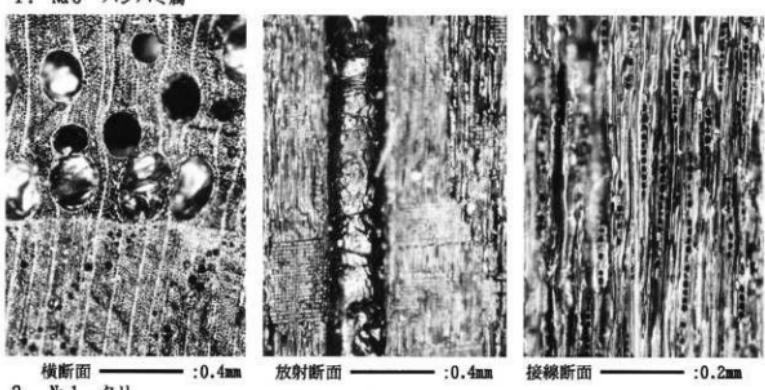
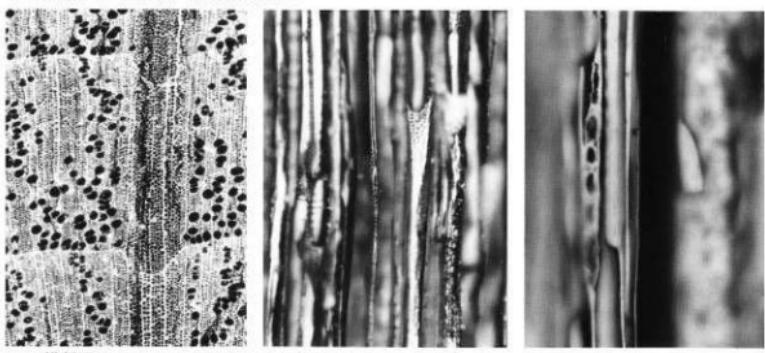
15試料中9点がクリであり、クリ？とした2点を含めると11点にもなり、クリが大部分を占める。他はハシバミ属、サクラ属、フジが各1点である。クリは特に保存性がよく建築材として用いられていた可能性があろう。炭化材にクリが多いのは周囲で比較的容易に入手できたためと考えられ、当時周辺にクリが分布していた可能性が推定される。

### 参考文献

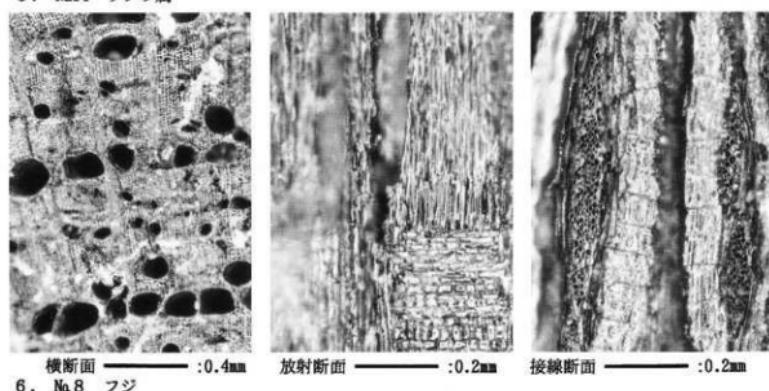
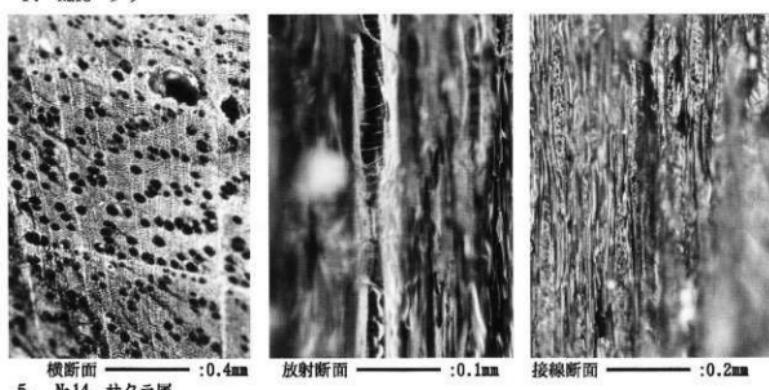
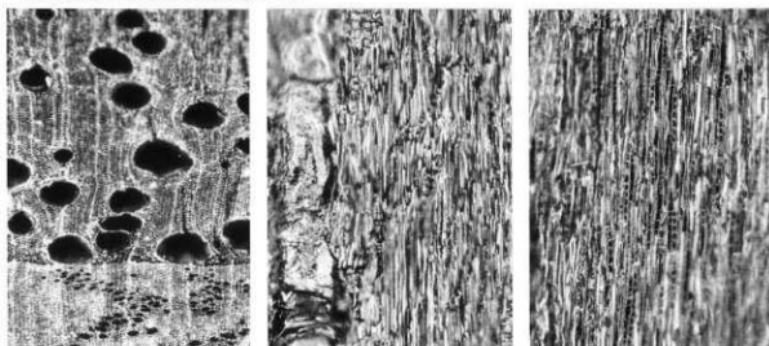
佐伯 浩・原田 浩 (1985) 針葉樹材の細胞・木材の構造、文永堂出版、P.20-48.

佐伯 浩・原田 浩 (1985) 広葉樹材の細胞・木材の構造、文永堂出版、P.49-100.

笠森城跡出土炭化材の顕微鏡写真 I



## 笹森城跡出土炭化材の顕微鏡写真 II



## IV まとめ

今回の発掘調査では、篠森城の主体部を形成する遺構群を確認することはできなかった。

調査区南側、II区とした尾根上で発見した怪しきな掘立柱建物跡や柱穴列、土塁などは中世・戦国期の城館を構成する遺構群となる可能性があり、調査区周辺では地表観察ではあるが、城館特有の遺構とみられる地形を確認している。

調査区内の土塁は北側からの攻撃に対する防御施設とみられ、東西方向の柱穴列も防御もしくは尾根上の平坦面を区画する施設となる可能性がある。尾根南側の平場造構は、狭い平坦面を拡幅し、防護施設などを設けていたものとみられる。

調査で出土した笄や鉄砲玉は、城館に伴うこれらの遺構群が機能していた時期に属する可能性がある。

また、古代の聚落住居跡や、縄文時代の土坑や早末期から晩期にかけての遺物、弥生時代後期の土器を出土しており、丘陵上には各時代の遺跡が展開していた可能性が高いが、不明である。

### 参考文献

- 坂田 啓編『私本 仙台藩士事典(増補版)』創学出版 1995  
紫桃正隆『史料 仙台領内古城・館 第四巻』宝文堂 1974  
『みやぎの戦国時代・合戦と群雄』宝文堂 1993  
仙台の歴史編纂委員会編『仙台の歴史』宝文堂 1989  
仙台市「宮城町誌」改訂編纂委員会『宮城町誌 史料編(改訂版)』 1989  
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編2 考古資料』 1995  
所 莊吉『火绳銃』雄山閣出版 1964  
藤沼邦彦ほか『日本城郭大系 第3巻 山形・宮城・福島』新人物往来社 1981  
平凡社『日本歴史地名大系 第四巻 宮城県の地名』 1987  
宮城県史編纂委員会『宮城縣史1 (古代・中世史)』 1957  
『宮城縣史32(資料篇9)』 1970  
宮城県姓氏家系大辞典 編集委員会編『角川日本姓氏歴史人物大辞典4 宮城県姓氏家系大辞典』 1994

# 写 真 図 版





写真1 镇江城跡周辺航空写真（1947年10月撮影）



2. I区全景（北から）



3. II区斜面裾部（調査前・西から）



4. II区南斜面（調査前・西から）



5. II区北斜面（調査前・北から）



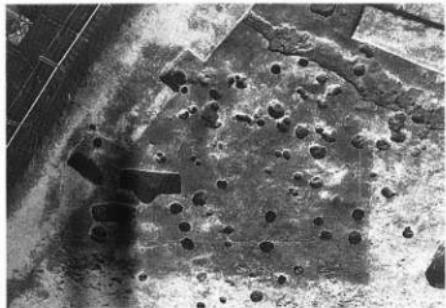
6. I区1T全景（北から）



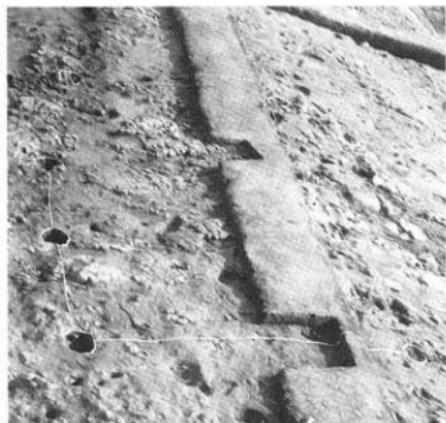
7. I区2T（東から）



写真2 I・II区全景  
8. I区3T全景（東から）



9. S B-01・S A-01全景



10. S B-02・S A-08全景



11. S A-02～S A-07全景

写真3 II区掘立柱建物跡・柱列



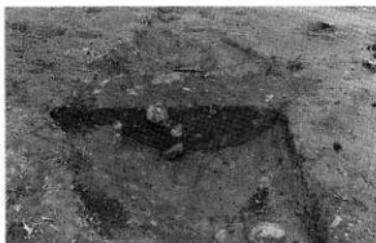
12. II区土壌・SD-02検出（西から）



13. II区土壌No.2断面（東から）



14. II区土壌No.3断面（南から）



15. II区SK-02断面（南から）



16. II区SK-01検出（南から）



17. II区SK-01全景（南から）



18. II区SK-03全景（東から）

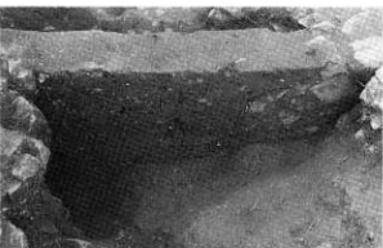


19. II区SK-04・SK-05全景（南から）

写真4 II区土壌・土坑



20. II区SK-06全景（東から）



21. II区SK-07断面（東から）



22. II区SK-08全景（東から）



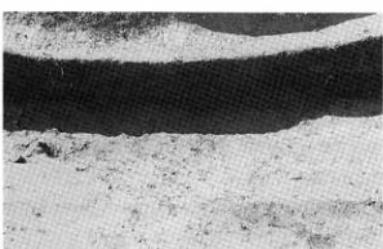
23. II区SK-09断面（東から）



24. II区SK-10全景（東から）

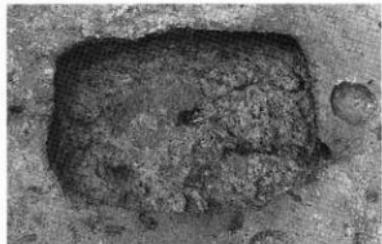


25. II区SK-11断面（東から）



26. II区SK-101断面（東から）

写真5 II区土坑



27. II区  
1号焼土造構全景  
(東から)



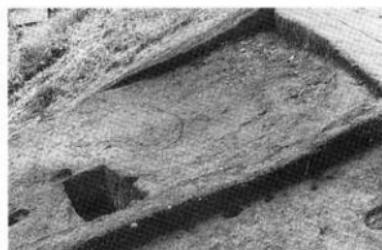
28. II区 1号焼土造構断面 (南から)



29. II区  
2号焼土造構全景  
(西から)



30. II区 2号焼土造構断面 (東から)



31. II区 S X-01全景 (東から)



32. II区 S X-02全景 (西から)



33. II区 S X-03断面 (東から)

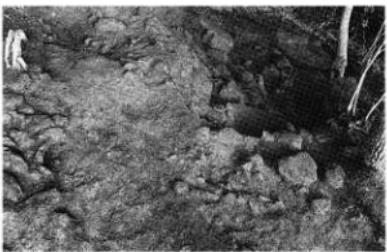


34. II区 S X-03全景 (東から)

写真6 II区焼土造構・性格不明造構



35. II区3号平場造構東端（西から）



36. II区SX-05検出（西から）



37. II区SX-05全景（北から）



38. II区SX-06（全景）（南から）



39. II区SX-07検出（東から）



40. II区SX-07全景（東から）



41. II区SI-01全景（東から）



42. II区SI-01カマド（西から）

写真7 II区3号平場造構・性格不明造構・竪穴住居跡



43. II区SD-03検出 (3T・東から)



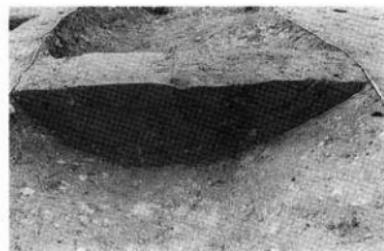
44. II区SD-03底面ピット  
(2T・東から)



45. II区SD-03底面ピット断面 (東から)



46. II区SD-04全景 (東から)



47. II区SD-06断面 (東から)



48. II区SD-06全景 (西から)

写真8 II区溝跡



49. II区1号・2号平場遺構  
(2T・東から)



50. II区2号平場遺構  
(1T・東から)



51. II区1号・3号平場遺構 (4T・東から)



52. II区3号平場遺構  
(3T・東から)



53. II区3号平場遺構分岐点 (西から)



54. VI区4号・5号平場遺構 (西から)

写真9 II・VI区平場遺構



55. VI区段状平場造構（東から）



56. VI区東端の平場造構・南肩部（西から）



57. III区全景（東から）



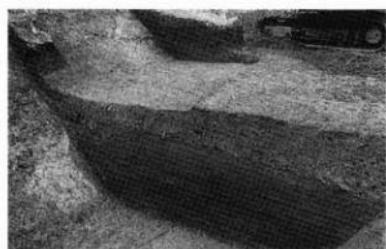
58. III区SR-01（3T・東から）



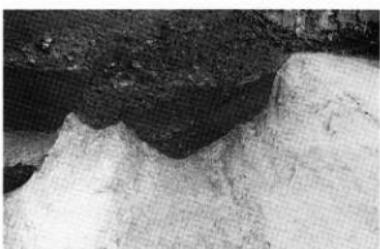
59. III区SR-01（4T・東から）



60. III区SR-01（4T・南から）



61. III区SR-01堆積土上層（5T・東から）



62. III区5T SR-02・SR-03全景（東から）

写真10 VI・III区



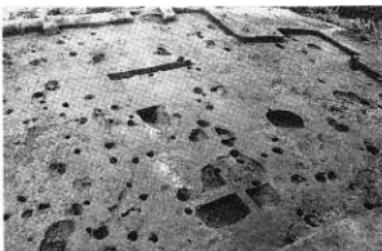
63. IV区土盛り状造構（東から）



64. IV区通路状遺構（西から）



65. IV区III層上面全景（西から）



66. IV区IV層上面全景（西から）



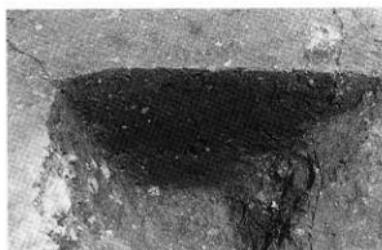
67. IV区西壁断面（南から）



68. IV区SK-01断面（東から）

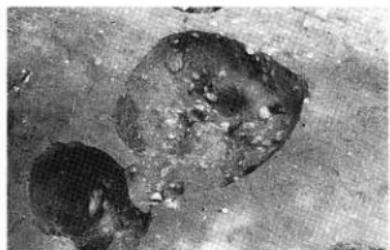


69. IV区SX-02全景（東から）



70. IV区SX-03断面（西から）

写真11 IV区



71. IV区SK-101全景（南から）



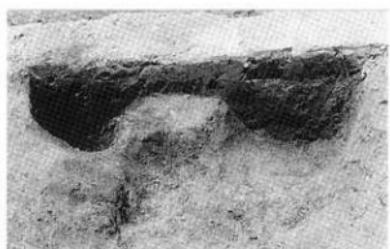
72. IV区SK-103全景（南から）



73. IV区SK-104全景（東から）



74. IV区SK-105全景（南から）



75. IV区SK-106断面（東から）



76. V区切込状遺構（南から）



77. V区南西平場遺構（南から）



78. V区土盛り状遺構（南から）

写真12 IV・V区

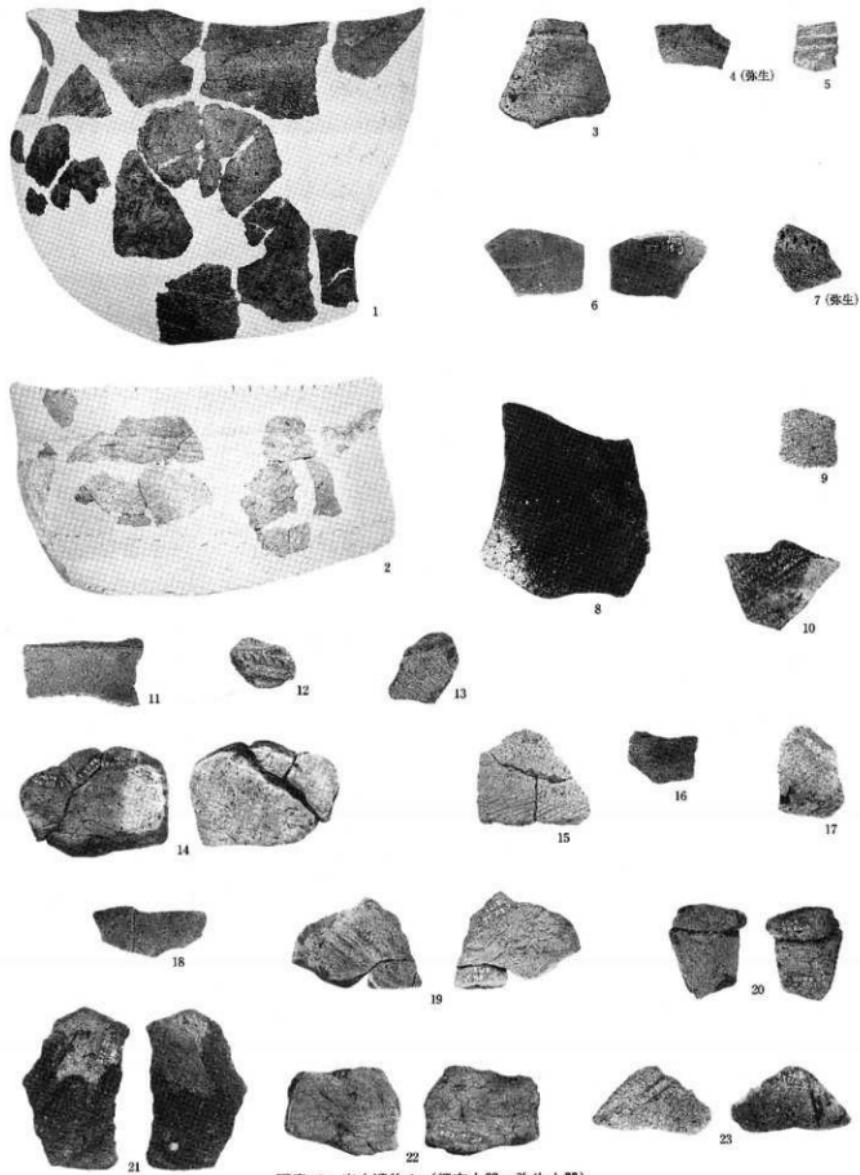


写真13 出土遺物1 (縄文土器・弥生土器)

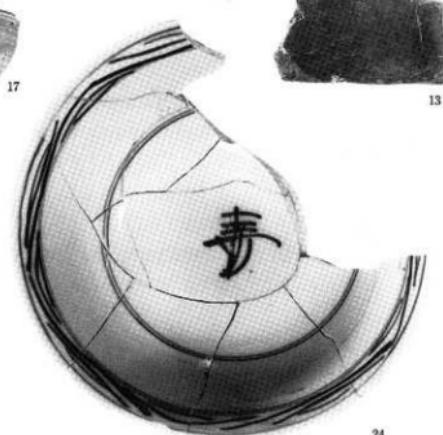


写真14 出土遺物2（土師器・磁器・金属製品・土製品・砥石）

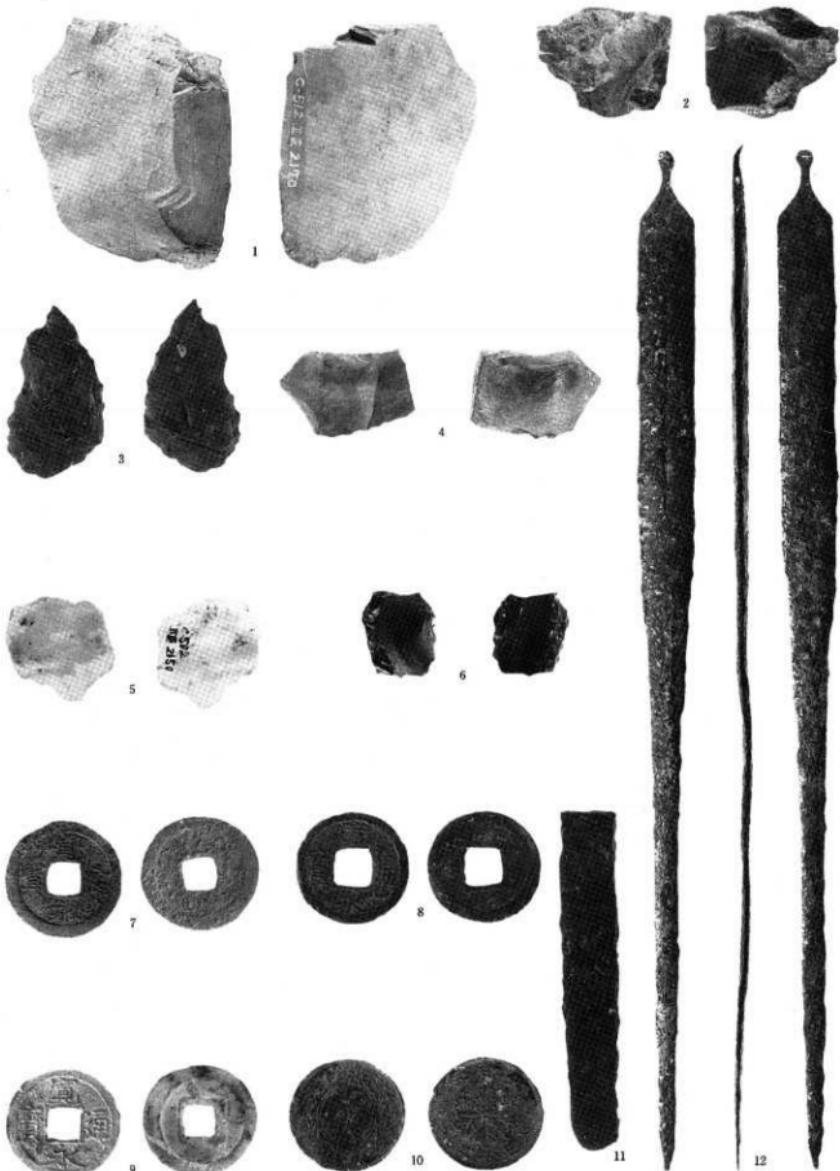


写真15 出土遺物 3 (石器・金属製品)

# 報告書抄録

ふりがな	ささもりじょうあと							
書名	笠森城跡							
調査名	発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第209集							
編著者名	金森安孝							
編集機関	仙台市教育委員会文化財課							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022-214-8893							
発行年月日	平成8年3月31日(1996年)							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
仙台市 宮城野区 鶴ヶ谷 字本山・船下	宮城県 仙台市 宮城野区 鶴ヶ谷 字本山・船下	市町村	遺跡番号	38° 17' 40"	140° 55' 20"	1995年4月18日 12月1日	約4,000m <sup>2</sup>	仙台市都市計画 道路・東仙台泉 線道路改良工事 に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
笠森城跡	包含地	戦国時代 近世	土塁、掘立柱建物 跡、柱列、溝跡、 上坑、平場遺構、 通路状遺構	磁器、金属製品、 石製品、古錢		城館跡 笠森城に関する能性のある 遺構・遺物を発見した。		
		古代 縄文時代	竪穴住居跡、上坑、 焼土遺構	土師器、土師質土器、 須恵器、瓦質土器、 瓦、土製品、弥生土器、 縄文土器、剥片石器				

仙台市文化財調査報告書第209集

**笹森城跡**

**発掘調査報告書**

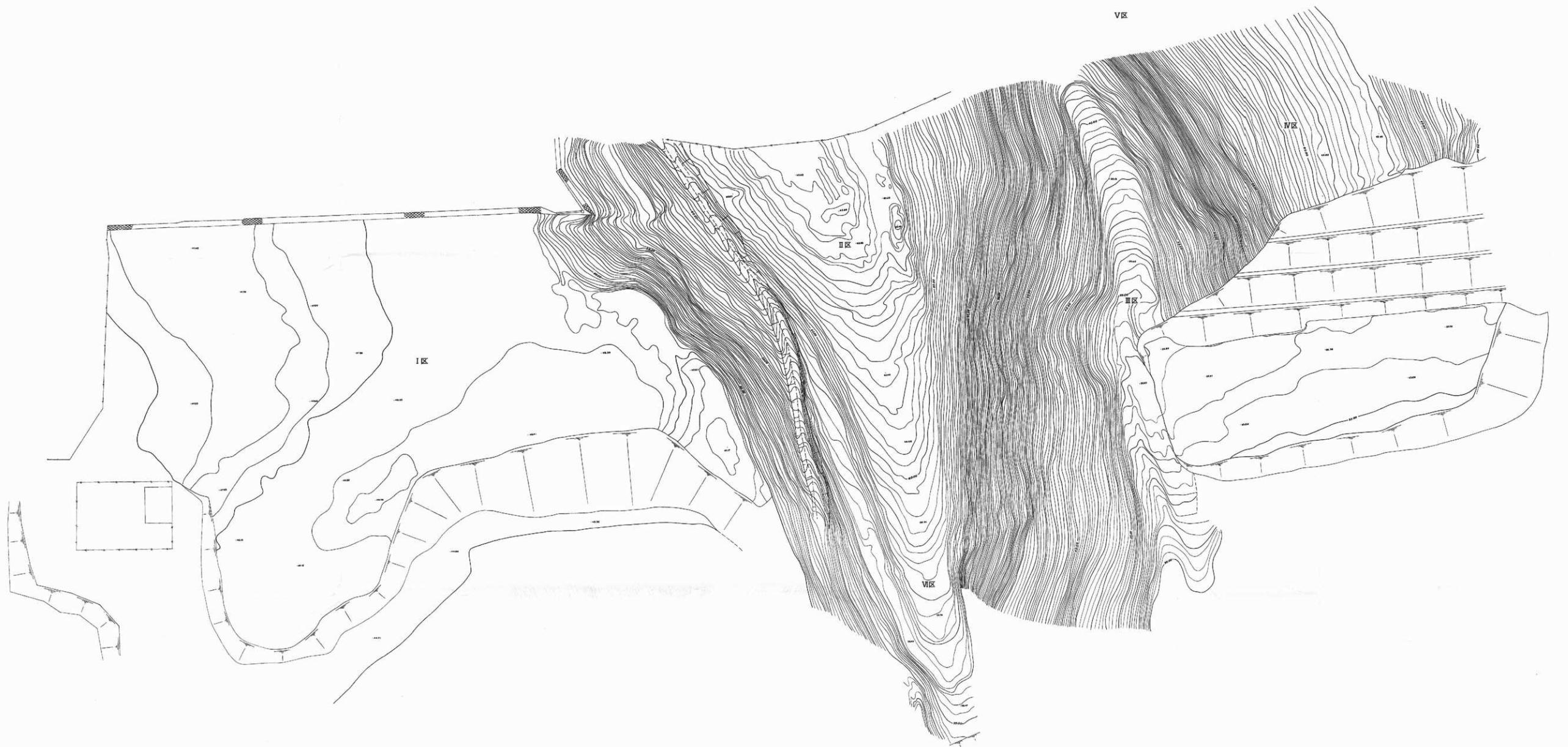
1996年3月

発行 仙台市教育委員会

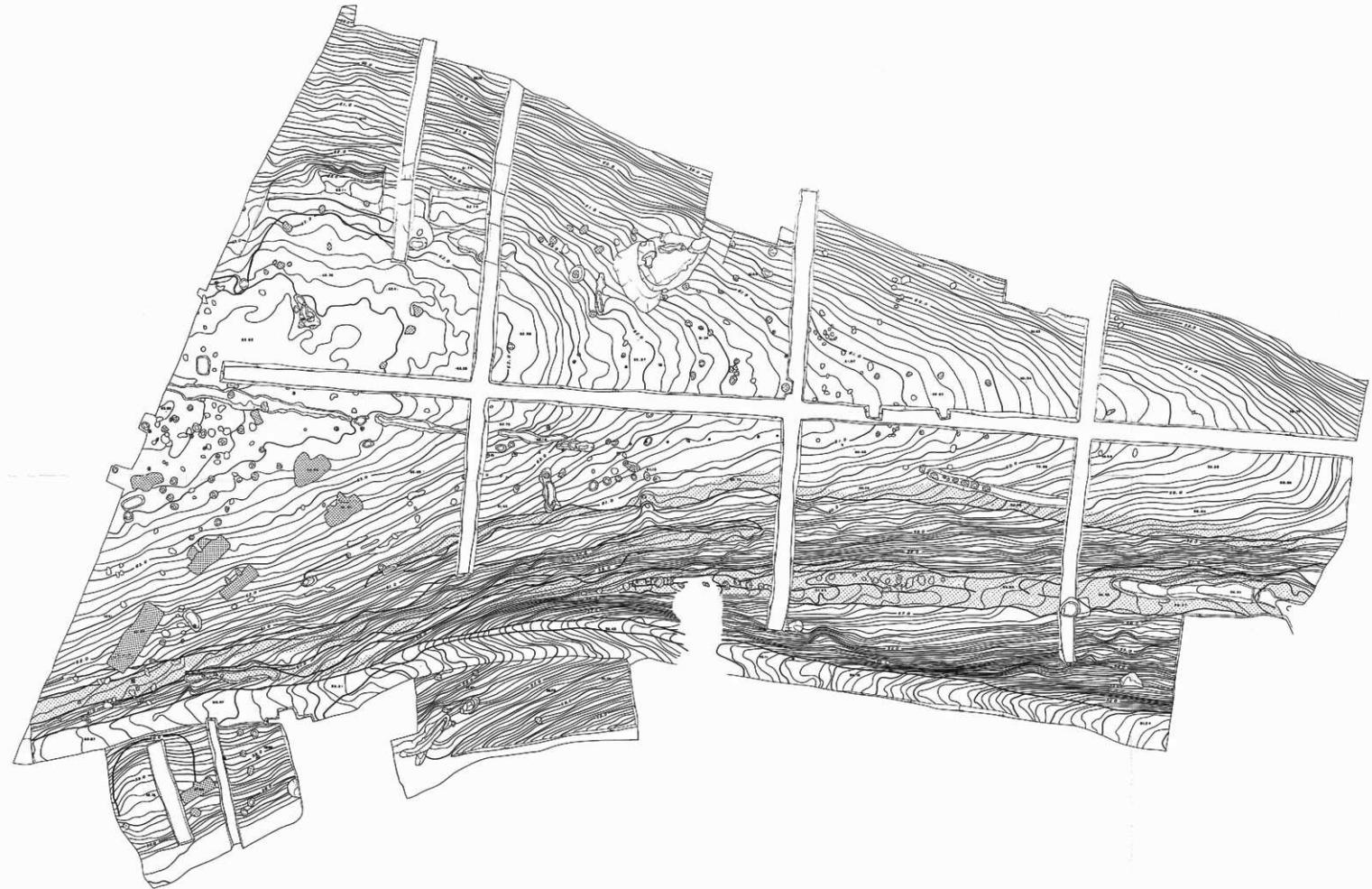
仙台市青葉区岡町三丁目7-1  
文化財課 022(214)8894

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24  
TEL 022(263)1166



付図1 笹森城跡現況測量図（調査前・1995年） S = 1 : 200



付図2 笹森城跡II区遺構測量図 S=1:100

